

# 沼津高専だより

第96号

平成22年3月17日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構  
沼津工業高等専門学校  
〒410-8501 沼津市大岡3600  
TEL <055> 921-2700

題字：柳下福蔵 学校長

☆沼津高専 ホームページアドレス (URL) <http://www.numazu-ct.ac.jp/>

目次

☆沼津工業高等専門学校**の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針**… 3

☆**校長・3主事から（平成21年度総評）**

高専教育の充実・高度化に向けて……………校長 柳下 福蔵… 4

教務主事としての思い……………副校長（教務主事） 大島 茂… 5

平成21年度を振り返って……………校長補佐（学生主事） 佐藤 誠… 6

8年間ありがとうございました……………校長補佐（寮務主事） 大久保清美… 6

☆**各学科から（平成21年度総評）**

平成21年度を振り返って……………機械工学科長 小林 隆志… 7

電気電子工学科、巣立ちゆく皆様へのエールと近況報告… 電気電子工学科長 望月 孔二… 8

平成21年度末にあたって……………電子制御工学科長 舟田 敏雄… 9

制御情報工学科 平成21年度を振り返って……………制御情報工学科長 長谷 賢治… 10

物質工学科平成21年度総評……………物質工学科長 押川 達夫… 11

平成21年度を振り返り……………教養科長 西垣 誠一… 11

平成21年度を振り返って……………専攻科長 芳野 恭士… 12

☆**部活動**

第44回「全国高等専門学校体育大会」成績一覧…………… 13

第47回「東海地区国立高等専門学校体育大会」成績一覧…………… 13

●**全国大会出場報告**

全国大会出場報告……………サッカー部 杉山 芳臣… 14

水泳部のH21年度全国高専大会in宮崎……………水泳部 遠藤 雄也… 15

初団体戦出場を経験して……………バドミントン部 佐野 友美… 16

バレー部全国大会出場への軌跡……………バレーボール部 宇佐美宏顕… 16

いくつかの思ったこと……………卓球部 石川 岳… 17

☆**行事・コンテスト・その他イベント**

●**体育祭**

一味違った体育祭……………体育祭実行委員長 電子制御工学科4年 田中 弥… 18

●**高専祭**

第44回高専祭を終えて……………高専祭顧問教員 野毛 悟… 18

祭り馬鹿……………高専祭実行委員長 物質工学科5年 福田 洸平… 19

●**3年スキー合宿研修**

3年スキー合宿研修報告……………3学年合宿研修担当 眞鍋 保彦… 20

有意義なひととき……………電気電子工学科3年 庄中 康太… 20

●**ロボットコンテスト2009**

ロボコン部だより……………ロボコン部顧問教員 望月 孔二… 21

無念のロボコン地区大会……………ロボコン部 加藤 真吾… 22

●**第4回沼津高専英語スピーチコンテスト**

スピーチコンテスト結果…………… 23

スピーチコンテスト……………電子制御工学科2年 片山晃次郎… 23

スピーチコンテストを終えて……………電子制御工学科5年 伊藤 敦… 23

●**その他イベント**

第2回 高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップ

高専における設計教育の高度化を目指して……………機械工学科 小林 隆志… 24

3次元設計デジタル造形コンテストに出場して……………機械工学科5年 武村 直輝… 25

青少年表彰制度『千本賞』受賞

先生は高専のお兄さん……………物質工学科3年 上野 翔也… 25

☆**退職教職員から**

定年退職のご挨拶……………教養科 野澤 正信… 26

定年を迎えて……………栄養士 土屋つね子… 27

工業化学科より物質工学科へ……………技術室 雨宮 博… 27

☆**卒業生・修了生から**

沼津高専で学んだ事……………制御情報工学科5年 栗田 圭祐… 28

「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」… 物質工学科5年 大橋 史弥… 28

さらなる高みを目指して……………制御・情報システム工学専攻2年 遠山 勇樹… 29

玉は玉によって磨かれる 人は人によって磨かれる… 応用物質工学専攻2年 蔭山 夏美… 30

☆**学生の研究活動（2009. 5. 1～2010. 4. 30）**…………… 31

☆**平成21年度卒業生・修了生進路先一覧**…………… 40

☆**教育後援会から**

卒業に際して……………教育後援会会長（E5） 海野 誓志… 42

卒業に際して（未来への希望）……………教育後援会副会長（M5） 大川 幸子… 43

☆**沼津高専TOEIC® IPテスト**……………電子制御工学科長 舟田 敏雄… 43

☆**事務部から**

2大学と教育研究交流協定を締結…………… 45

平成22年度（平成22年4月～平成23年3月）行事予定表…………… 45

## 沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

### 教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

### 目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成をおこない、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

### 教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

### 学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

### 養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

### 学生受入方針

- ・ 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- ・ 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- ・ 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- ・ 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

## 校長・3主事から（平成21年度総評）



### 高専教育の充実・ 高度化に向けて

学校長  
柳下 福蔵

55校の国立高専が独立行政法人化されて第一期（平成16年4月から5年間）が経過し、第二期の初年度にあたる平成21年度が終わろうとしています。国立高等専門学校機構が中央教育審議会答申に基づいて策定した第二期中期目標・中期計画が平成21年5月に提示されました。沼津高専は高専機構の第二期中期目標・中期計画に基づいて本校の第二期中期計画・平成21年度年度計画（案）を全教職員参加のもとに策定しました。豊橋技術科学大学、静岡大学、地域の大手企業、静岡県・沼津市の教育界、教育後援会、同窓会からの各委員により構成された本校の運営諮問会議（平成21年7月31日開催）に提示して諮問を受けた第二期中期計画・平成21年度年度計画が本校のホームページに公開されています。今回策定した本校の第二期中期計画・平成21年度年度計画の基本的なところは、中央教育審議会が高専教育の充実の方向として提示した

- それぞれの高等専門学校が自主的・自律的改革に不断に取り組み、社会経済環境の変化に積極的に対応する
- 中堅技術者の養成から、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成へ
- 多様な高等教育機関のうちの一つとして本科・専攻科の位置付けを明確に
- 産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者等の輩出へ

上記4項目の内容を沼津高専に適合するように具体化し、併せて、本校の特長のさらなる高度化を目指すものであります。基本的なところは、本校の教育理念である「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」と相通ずるものとなっています。

特に、産業界や地域社会との連携に関しては、産業界の未曾有の不況化にもかかわらず地域共同テクノセンターを核として、地域企業との共同研究・受託研究・技術相談が活発に進められており、共同研究・受託研究が卒業研究・専攻科研究のテーマとして学生の総合開発能力の育成に極めて大きな貢献していることは高専教育の特長を明確なものとしています。

一方、企業技術者（OBを含む）に本校学生のものづくり教育を担当していただく「企業技術者等活用プログラ

ム」が、共同教育の実践に向けて高専機構で昨年度に引き続き予算化されました。全学科の1、2、3年生にもものづくりの楽しさの講義、4年生には地域の大手企業による先端技術講座、5年生にはマーケティング・経営・知財の講義を開講し、受講学生、教員のいずれからも好評を得ています。同予算で知財関係のコーディネータを非常勤で採用し、本校教員の特許申請等に関する啓蒙・援助をお願いしたところ極めて好評であり、来年度以降も是非継続したいと思っています。

平成21年度文部科学省の科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」に採択された「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」は、選抜された第一期受講生10名に対して、平成21年10月から隔週土曜日に沼津高専と東海大学開発工学部においてシラバスに予定された講義が順調に進められており、併せて、4月から講義が始まる第二期受講生を募集するための準備が進められています。

平成21年10月にJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定継続実地審査を受審し、平成21年10月に静岡大学と、12月に東京工業大学と教育研究交流に関する協定を締結しましたが、いずれも本校の平成21年度年度計画に立案した事項が着実に実行でき、学校長として関係各位のご尽力に深く感謝しているところであります。

学生諸君は、高野連地区大会、一日体験入学、体育大会東海地区大会・全国大会（九州）、高専祭、ロボコン、プロコン、吹奏楽演奏会などにおいて、それぞれの立場で活躍いただきましたが、来年度も納得できる結果を目指して継続的に頑張ってくださいと願っています。

5年生諸君・専攻科2年生諸君、卒業・修了、本当におめでとうございます。一昨秋、米国に端を発した100年に一度とも言われている世界同時大不況の影響を受け、日本の製造業界は極めて厳しい状況にあります。このような時だからこそ未来に向けての技術開発が必要不可欠であります。

高校卒68%、大学卒73%の就職内定率（日本経済新聞、2010年1月15日朝刊）に対して、本校の就職内定率が



100%の意味するところは、本校の卒業生・修了生に対する企業側の期待がいかに大きいかを端的に物語っていると思います。一方で、経済状況が厳しい時の採用者の中から優秀な技術者が多く出る、という企業側の経験則があります。

ともあれ、産業界に就職する諸君、大学・専攻科・大学院に進学する諸君にとって、沼津高専における5年間の学生生活はかけがえのない五年（いつとせ）でありま

す。ゆるぎない人生を築き上げる四つの原則

- 公明正大であること
- 清廉潔白であること
- 裏表がないこと
- 思いやりがあること

を贈る言葉として、卒業生・修了生諸君の新たな社会でのご活躍を心より祈念します。



## 教務主事としての思い

副校長（教務主事）  
大島 茂

昨年の12月25日、冬休み前の最終日に、校内放送で全学生に次のように訴えかけました。「後期中間試験が終わり、成績が出揃いました。各クラスの成績一覧表を見ますと、たくさん不合格科目を持つ人が見受けられます。今はまだ中間試験の段階だから、赤点がたくさんついても、学年末の最後には先生が何とかしてくれるだろうと思っている人がいるかも知れませんが、そんなことは決してありません。何とかするためには、皆さん自身の努力しかありません。努力もせずに、他人の助けを待っているようなことでは、何も解決しません。自分から行動を起こすことが大切です。この冬休み期間を、何も勉強しないで過ごしてしまったということがないようにしてください。授業がない期間ですので、自分自身のペースで、計画的に勉強できる絶好のチャンスです。毎日勉強する時間を必ず作り、特に、自分の苦手な部分を集中して学習し、力をつけてきてください。皆さんと同じ年頃の受験生たちは、必死になって勉強しています。皆さんも進級に向けて必死になって勉強してください。諦めずに努力すれば道は開かれます。」

これは私の心からの叫びのようなものです。高専には同じように優秀な人達が大勢入学してくるわけですから、中学時代に上位の成績にいた人が、高専に入ったとたんにクラスで中位・下位の成績になることは至極普通に起こることです。しかし、そのことで自信を失い勉強に対する意欲をなくし、進級を諦めてしまう人が最近増えてきているように思います。塾や個人教師の指導に頼り、教えられることだけの勉強で育ってきている人達が、何事においても主体的に行動することが要求される高専の環境に入り、自分自身の力で勉強を進める術を切り開くことができずに学力低迷に陥っている例が多いように思

います。

そのような学生達の支援として、今年度、1年生に対して非常勤講師による数学の補習を実施しました。週1回の放課後の補習に辛抱強く喰らいついて頑張ってきた学生達は意欲を取り戻しつつあります。諦めることなく我慢強く努力し続けることで、人に頼る勉強方法から早く抜け出し、自ら学習計画を立て、自ら勉強し、わからないところは自主的に参考書を調べ、練習問題を解き、それでもわからないときは友人や教員に質問して解決する。高専で必要となるそのような勉強方法を早く身につけられるよう指導することが大切であると強く感じています。ご家庭におかれましても、そのようなご指導くだされば有難く思います。

今年度は新型インフルエンザの流行によりいろいろな面で影響がありました。多くの高専で学級閉鎖や休校をしたという話を聞く中で、幸いにも沼津高専では夏休み明けに機械工学科1年生で4日間の学級閉鎖をただけで済んでいます。しかしまだ油断はできません。入学試験には、インフルエンザで受験できない受験生の救済措置で追試験を実施する体制を組んでいます。これから学年末試験や5年生は卒業研究発表会を控えています。学内で大流行が生じることなく無事に済むことを願っています。

インフルエンザの影響で一つとても残念でしたのは、毎年のように実施してきたMSOE海外研修が実施できなかったことです。参加希望者の募集を始めた時点で中止することとなりました。参加希望を持っていた多くの学生をがっかりさせる結果となり大変申し訳なく思っています。若い時代に海外へ出てみる経験は非常に大きな意味があり、英語学習に対する意欲を掻き立てる意味でも、是非継続したい行事であると考えています。MSOE海外研修よりも安い費用で実施できる別の海外研修プログラムも検討してみようと考えています。海外との交流という面では、他高専に比べ沼津高専は少し遅れを取っています。今後力を注がなければならない点であると思っております。



## 平成21年度を振り返って

校長補佐（学生主事）  
佐藤 誠

リーマンブラザーズショックに端を発した世界的経済状況の悪化は、今年度本校学生の就職活動にも大きな影響を及ぼしました。求人倍率の低下はもちろんのこと、例年であれば順調に内定が決まるはずなのに、内定がなかなか決まらないという状況が続きました。最終的には、各科就職担当教員による全力を挙げての指導が功を奏し、今年度も無事、就職希望者89名全員が就職内定を受けることができました。沼津高専の歴史の中でこれほど就職に関して苦勞した年はなかったのではないかと思います。この状況はしばらく続くことが予測されます。

そこで、今年度は新たな一歩として、本科4年生・3年生・専攻科1年生の希望者に対して、キャリアアップセミナーを開催し、全学を通じた就職指導を行いました。講師には本校客員教授の三谷哲也先生をお願いし、合計8回の講義や演習が展開されました。来年度、このセミナーの効果が現れることを期待したいと思います。今後も就職に強い沼津高専を維持していくためには、このような全学を挙げての試みが不可欠になってくるのではないかと思います。そして、学生自身も今までとは違い、就職するのは簡単ではないという意識を持ってほしいと思います。

次に、昨年大きく成果をあげた部活動ですが、今年度もサッカー部、水泳部、バレー部、卓球部（男子シングルス）、女子バドミントン部が東海地区高専体育大会で優勝し、九州・沖縄地区で開催された全国高専体育大会へと出場しました。全国高専体育大会では、水泳100m、200mバタフライでE4の遠藤雄也君が準優勝、女子バドミントンのシングルスでC1米山沙弥さん、ダブルスでC2佐野友美さん・C1米山沙弥さんペアが3位入賞を果たしました。ここ2年の本校の活躍は他高専からも大

きな注目を集めています。日頃の学生の努力と顧問教員の熱心な指導の賜物ではないかと思います。

そして、学生会も昨年同様、精力的な活動を展開してくれました。高専祭でのギネス挑戦は、学生会にとっての新たな一歩となりました。高専祭には以前から大きな課題がありました。それは高専祭参加に対する学生意識の大きな温度差を解消することでした。この課題を解決しようと試みたのが、今回のギネス挑戦です。ギネス記録の樹立には至りませんでした。大きな一歩を踏み出しました。また、今年度、学生委員会の目標である学生のモラル向上にも一役かってくれました。学生からモラル向上に関するポスターを募集し、優秀な作品を掲示することにより学生のモラルに対する意識向上に大きく貢献してくれました。

さて、昨年から継続している学生主事・主事補・学生委員・学生係職員の校門前での交通指導ですが、傘さし運転、イヤフォンをつけての運転は全くと言っていいほど目にするのがなくなりました。しかし、今年度はマフラーを改造した、音のうるさいバイクでの通学が気になりました。これらについても、来年度からは指導したいと考えています。命に関わる交通事故は幸い起こっていませんが、交通事故の件数は減っているとはいえません。学生諸君の安全運転に対する意識を高めてほしいと思います。

最後に、今年度設立を目指していた学生支援総合センターですが、名称を含め、当初の計画とは多少異なる形で、来年度の4月から始動する予定です。当面は、メンタルヘルス部門と生活支援部門を中心として活動を開始し、将来的には就職・進学に関係したキャリア支援部門や修学支援部門への拡大も図れればと思っています。それに伴い、現在尚友会館2階にある保健室と学生支援室を学生課の置かれている共通棟1階へ移設し、共通棟1階全体を学生支援ゾーンというかたちに作り替えることになりました。

今後も、より充実した学生支援が行えるよう教職員一同努力していきたいと思っておりますので、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしく申し上げます。



## 8年間 ありがとうございました

校長補佐（寮務主事）  
大久保 清 美

今年度の寮を振り返ってみると、全体としては例年同様、大変良く運営されてきたと思います。これもひとえに寮生会の皆さんと教職員との協力の賜物と深く感謝しています。

今年度で5年目を迎えたマテカは、寮の文化としてすっ

かり定着しました。11月には静岡新聞紙上において「寮の上級生が手作り授業」との見出しで大きく紹介されるなど、高専のPRにも一役買いました。また、マテカの寮外拡大版ともいえる「長泉北中学校の放課後学習」支援も、同じく静岡新聞で「先生は高専のお兄さん」と題して紹介されるなど、地域社会でも高く評価され、過日、沼津千本ライオンズクラブより青少年表彰制度である「千本賞」を授与されました。このように今年度は、マスメディアなど外部の方々から我々学生寮の運営が注目された年でした。これまで我々が積み上げてきた寮運営の実績が評価されてのことと、大変うれしく思っています。

しかし、良いことばかりではありませんでした。今年

度はとにかく新型インフルエンザに苦しめられました。寮としてはできる限りの感染予防策を取りましたが、残念ながら常に数名の発症者がいる状態が長く続きました。おかげで棟別杯など、寮生たちが楽しみにしている行事や企画事もたびたび中止せざるを得ず、また点呼も時によっては簡易な方式に変えるなど、寮生活がたいへん変則的になりました。

ところで、教職員の方ではご存知のように、永年「寮のお母さん」として寮生たちに慕われてきた栄養士の土屋つね子さんが、大変残念なことです。今年度をもって定年退職されます。「寮の生き字引」とも言える土屋さんは、我々教職員にとっても本当に頼もしい存在でした。幸い、来年度からまだしばらくは再雇用という形で寮に来てくださると思いますので、その間に是非いろいろなノウハウを皆さんに伝えていっていただきたいと思えます。土屋さん、長い間お疲れさまでした。そして、大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

2年目を迎えられて今や寮の大黒柱として寮生をご指導くださっている寮監の牧野先生には、ただただ感謝あるのみです。寮務副主事・寮務主事補・寮務委員の先生方には今年度もまた、校務多忙の中、寮生指導の任に当たっていただき、誠にありがとうございました。記録の意味も兼ねて、ここに各棟顧問のお名前を記しておきます。翔峰：永禮哲生・林剛司、栄峰：遠藤良樹、光峰：

吉野龍太郎・中道義之、明峰：古川一実・山根説子、清峰：藤井数馬・松田伸也、優峰：大澤友克・高矢昌紀、秀峰：江上親宏・澤井洋の先生方でした。

最後に、私事で恐縮ですが、今年度限りで寮務主事を退くことになりました。思い起こせば、この4期8年間、本当にいろいろなことがありました。しかし、私のような者が8年の長きにわたって寮務主事を務めることができましたのは、ひとえに歴代の寮監の先生方、寮務係の皆様、寮務主事補・委員の先生方、宿直教職員の皆様、そして何よりも、自治能力の高い優秀な寮生会の皆様のおかげでした。前寮監の水口先生が「教育はチームプレーだ」とよくおっしゃっていましたが、まさにそのとおり、沼津高専学生寮チームは教職員と学生とのそれぞれが助け合い、協力し合い、高め合う、本当に素晴らしい日本一のチームでした。そして、この日本一のチームにはまた、いつも素晴らしいサポーターがいてくれました。我々を温かく見守りご支援くださった歴代の校長先生、教職員の皆様、保護者の皆様すべてに、この場を借りて心より御礼申し上げます。つたない主事でしたが、8年間自分なりに全力でやり遂げたという達成感が今もあります。この8年間は、高専教師冥利に尽きる8年間でした。本当にありがとうございました。それでは、今後の沼津高専学生寮の更なる発展を祈りつつ、この辺で筆をおくことにします。

## 各学科から (平成21年度総評)



### 平成21年度を振り返って

機械工学科長

小林 隆 志

この1年間、保護者の皆様にはご理解とご協力を賜り、心より感謝いたします。

今年度当初、2008年秋の金融危機による世界的な景気悪化が学生の就職に与える影響が心配されました。実際、今年度の求人企業数は約370社と、昨年度の約570社のほぼ3分の2となりました。それでも、就職希望者26名に対して、求人倍率は14倍以上あり、最終的に就職希望者全員が内定を得ることができました。例年に比べると電力・運輸・食品など内需関連企業が多かったようです。

進学者15名に関しては、本校専攻科進学7名、大学編入学8名であり、専攻科への進学者が増加しています。専攻科生に関しては、就職者3名、進学者1名となっております。卒業生、修了生の今後の活躍を期待しています。

今年度は2000年前後の就職氷河期にも増して厳しい就

職状況であったといわれており、景気回復の兆しが見え始めたとはいえ、来年度の就職も楽観視できません。機械工学科では来年度の就職に向けて、12月に4年生を対象とした企業技術者懇談会を開きました。卒業生5名を招いて、企業での仕事の内容、就職に対する心構えなどをお話していただきました。2月には採用試験で実施されているSPI試験対策講座を実施しました。来年度に向けて、学生の皆さんはまず自分がどのような道に進みたいのかをはっきりさせ、その上で企業研究を行うなど、周到な準備をお願いいたします。企業の求人活動が早期化する傾向がありますが、学生の皆さんは焦ることなく、日々の授業に真剣に取り組み、技術者としての基礎を固めることが最も重要なことです。

教育面では、企業の技術者の方に授業を行っていただく「ステップアップ授業」を実施しました。4年生の機械設計製図では、元ホンダの設計技術者の高松先生にジャッキの設計製作を熱心にご指導いただきました。製作にあたっては、技術室実習工場班の皆さんにお世話になりました。ものを実際に作るための困難さを体験するとともに、ものをつくりあげる達成感を体験することができました。このような産業界との協働教育が今後一層重要になると考えています。

12月には「設計教育高度化のための産学連携ワークショップ」が本校を会場に開催されました。ここでは高専における設計教育の高度化を図るために、全国高専、技科大、産業界から教員と技術者が集まり、議論が交わされました。産業界の技術進展に追従すべく、機械工学科における設計教育についても改善努力を継続する必要があると感じました。これと併せて開催された、学生の「3次元デジタル設計造形コンテスト」では、機械工学科5年生チームが15高専中6位と健闘し、審査員特別賞を受賞しました。

専攻科を修了した津島亮君は日本産業技術教育学会第4回発明・工夫作品コンテストにおいて「磁気浮上装置」で特別賞を受賞しました。このような創造教育にもさらに力を入れていく方針です。今年度はエコランカーへの取り組みを開始し、来年度はレースにも参加する予定です。学生の皆さんが未知のことに果敢にチャレンジすることを期待します。

教育環境に関して、平成21年度補正予算の補助を得て、

流体工学実験装置を更新しました。また、実習工場でもワイヤーカット放電加工機、円筒研削盤、レーザー加工機などの更新・導入を行いました。ここ2年ほどで実習工場の多くの工作機械が更新され、最新の加工技術を利用できるようになりました。

今年度は機械工学科に若い松田教員を迎え、11名の教員で教育・研究に取り組んでまいりました。松田教員は授業や寮で学生指導、野球部顧問として活躍していますが、その忙しさに驚きを隠せないようです。一方、この3月で岩谷先生が沼津高専を離れます。2年前に定年退職されたあとも、特任教授として学科運営を支えてくださいました。長年のご尽力に心からお礼申し上げます。

機械工学科では将来産業界においてリーダーとして活躍する人材を育成すべく、教員一同全力で教育に取り組むとともに、来年度以降も引き続き教育カリキュラム・教育環境改善に力を入れてまいります。保護者の皆様には変わらぬご理解とご支援を心よりお願いいたします。



## 電気電子工学科、巣立ちゆく皆様へのエールと近況報告

電気電子工学科長  
望月 孔 二

春は古い年度が終わって新しい年度が始まる時期です。野山では、彼岸花が終わって桜が咲くなど、毎日確実に変わっています。沼津高専を巣立ち行くあなたが今のあなたにまで成長するのに、どれだけ日が必要だったのでしょうか。きっとどの日も欠かすことのできなかったものと思います。人生は一度しかなくて、どんな一瞬もかけがえないものです。それらが積み上げられて今日の日を迎えることができました。卒業・修了おめでとうございませう。これから人生の仕事を探し当て、それが究められんことを祈ります。

卒業生と修了生の行き先については、この高専だよりの後半部にまとめられていますので、ここでは例年との比較・傾向を簡単に述べさせていただきます。

就職については、厳しい経済状況の下で、学生によっては何社かの試験に落ちるなど大きな苦戦を強いられました。しかし、就職を決めた20名のうち11名は、1社目の挑戦で決めています。傍目から見た印象かもしれませんが、楽々と合格している学生がこれだけいると言えます。就職活動に必要なのは学力・体力・コミュニケーション能力です。在学生でこれらに弱点がある学生は改善しなくてはなりません。

進学についても、経済状況の厳しさが影響したものと思われます。ある大学の編入学試験は、受験生120名に対して合格18名という、規模が非常に大きいものでした。

これは、就職よりも進学という考えが働いたからではないでしょうか。お陰さまで、最終的には就職や進学を希望する全学生が行き先を決めることができました。

社会的に厳しさが増す中で、学生にとってもっとも大切なことは、愚直にコツコツと前進することではないでしょうか。1万時間の法則という言葉聞いたことがあります。それは、超絶な力を発揮するのはその分野で1万時間の努力を続けて来た方だというものであり、努力なしの天才も努力尽くしての素人同然のどちらもないというものです。高専生なら5年間×365日×5.6時間で達成です。

今年度から学科が取り組んだ大きな行事は、11月開催の学科説明会です。主な対象者を3、4年生の保護者に定め、「来るべき進路決定に備えて」という副題で、学科長と就職担当、進学指導担当（E5学級担任）、E4学級担任、E3学級担任の5名から約90分の説明をさせていただきました。資料等の作成は今年度が初めてであり、運営に不備は無かったでしょうか。これから年を重ねるにつれて更に改善を図りたいと思います。なお、もう少しお知りになりたい事等をお持ちの方は、学科にお問い合わせください。望月も何時でもお待ちしております。

その学科説明会の資料にも示しましたように、新4年生（すなわち平成21年度3年生）につきましては、「カリキュラムを大幅に変更した最初の学生」であることから、4年次から急に増える「選択科目」の受講にご注意をお願いいたします。従来から学科の指導は「特別な理由が無い限り選択科目も全部受講する」というものでしたが、新4年生につきましても、必要な受講を欠かさないようお願いいたします。新4年生からは電験認定が認められた学年ですが、選択科目の中にも資格を得るのに必要な科目が多く含まれていることも申し添えます。

以上、簡単ですが電気電子工学科の報告とさせていただきます。紙面に取り上げなかったことも含め、新年度も教職員一同頑張っけてゆく所存です。保護者の皆さまには深

いご理解と多大なご協力を頂きありがとうございます。これからも一層のご支援とご鞭撻をお願いいたします。



## 平成21年度末にあたって

電子制御工学科長  
舟田敏雄

本年度は学科長を務めさせていただきました。至らぬ点も多々あったと思いますが、なんとか無事に年度末を迎えることができました。関係各位、保護者の皆様には、深く感謝いたしております。

さて、当学科の今年度卒業予定者は40名（昨年度36名）で、そのうち就職する者が12名（18名）、沼津高専専攻科への進学が16名（9名）、ほかの高専専攻科への進学が1名、大学編入学が9名（7名）、その他が2名（2名）となりました。

当学科の教員が研究指導している専攻科2年次生につきましては、大学院進学が6名（東京大学大学院1名、東京工業大学大学院3名、北陸先端科学技術大学院大学1名、奈良先端科学技術大学院大学1名）（昨年度5名）、就職が4名（8名）です。

就職に関しては330社（昨年度470社）から求人がありました。「求人はあるが、採用は昨年比10%」と言われる中で就職希望者の就職活動が11月末までかかり、金融危機・就職危機の影響が大きくなりました。実際、採用試験に4社で不合格となりましたが、5社目で内定をいただきました。ともあれ、現時点で希望者全員の進路が決まり安堵しております。また、上述の数字に見られるように、昨年よりも進学率は上がって65%となり専攻科への進学が増えています。これは「本科・専攻科の7年間の教育課程」が定着しつつあることを示しており、次年度も合格基準を満たせば専攻科入学希望者をできるだけ多く受け入れる予定です。

昨年11月17日に開催しました学科説明会には76名の保護者の皆様に参加いただきました。当日の資料は本学科の「第20回保護者懇談会資料」としてまとめ、1～4年の学生に配布し保護者の皆様には郵送致しました。これまでも機会あるごとにお話していますように、学業成績は科目ごとに評価A（優）、B（良）、C（可）、D（不可）で表され、Aが4点、Bが2点、Cが1点として、累積評価（GPA：Grade Point Average）を算出しています。それは学科・学校内のみならず国内・国際的にも高等教育機関の学業成績評価の共通の基準になっています。その評価を100点換算する場合、多くは累積評価点が25倍

されます。その算法では4.0（全科目の評価がA）は100点ですが、2.0（全科目の評価がB）は50点でしかありません。社会的にはこのように成績が評価されており、高い専門力・人間力を有する有能な人材が求められていますので、高い評価を獲得することが重要です。また、「コミュニケーション能力の不足」が不合格理由の一つに挙げられていましたが、そのような点を克服するには、毎日の授業で得られる学問的知識を吸収し消化して、質問・討論などで深め、学習記録を分析して知識を整理・体系化して論理的に考察する言語力・筆記力が要ります。

近年、学力に関して二極化が進み、本年の各クラスの成績分布は二つのピークがはっきりと現れています。その結果、毎年留年や退学する学生が少なからず生じていました。昨年度は授業の工夫や補習、追試など例年にくらべきめ細かく対応し、退学3名（D2の学生2名、D3の1名は休学中の進路変更）と留年1名（D5学生、現在病気療養中）を別にして、学生全員が進級できました。本年度も留年や退学する学生を減らすことを目標に、学習・到達目標や合格基準を明確に示し、学生を指導してまいりました。繰り返し数学I C、II C模擬試験などを行いました。EMaT試験（工学系数学統一試験）でのD4の成績では成績上位者が増えクラス平均点も上がったことに高い評価をいただきました。また、沼津高専TOEIC® IPテストでのD3、D4の成績でもスコアの伸びが見られます。全国立高専が一斉に行う「学習到達度試験」の数学、物理は2月には成績が届きますが、それでも良い結果であるよう願っています。また、取組んで得た「やれば、できる」との自信がさらなる向上につながり、その効果が低学年にも及びつつあります。しっかりと学習して実力をつけ、それが将来の進路選択を切り拓く力になるものと思います。

本年度の6つの目標に挙げておりました「学生のモラル向上」は、まだ達成できておりません。具体的には、低学年の学年目標を引き継ぐことを学科の方針としておりますが、様々な努力にも関わらず、残念ながら心なき事件が起きております。本科後半から専攻科の技術者教育での工学倫理と小・中学校課程での道徳教育や高校課程での倫理（公民）教育とのつながりを分析し、倫理綱領・行動規範等の充実を図りたいと思います。

以上、簡単ですが今年度の報告をいたしました。来年度も電子制御工学科教員一同、学生の資質向上に邁進していくつもりです。保護者の皆様には今後ともご理解とご協力ご支援をお願いいたします。



## 制御情報工学科 平成21年度を振り返って

制御情報工学科長  
長谷賢治

春陽の候、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素から制御情報工学科の教育・研究に多大なご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。さて、この紙面をお借りして平成21年度の制御情報工学科を振り返ってみたいと思います。

まずは、制御情報工学科5年生の進路状況から。世界景気の急降下が直撃した2009年度の就職戦線。また、この就職難の時代、全国高専のみならず短大等からも大学編入学を目指す学生が増加傾向にあった苦難な大学編入学。制御情報工学科5年生は37名中18名が就職、19名が進学。

就職状況は求人企業数は380社。求人倍率は21倍。就職内定先は中部電力、日本たばこ産業、新日本製鉄、資生堂、リコー、パナソニック、テルモ、日本ペーレー、東芝機械、明電STなどの経営基盤が強固な企業群です。

また、進学先は大阪大、東北大、名大（3名）などの旧帝大をはじめとして筑波大、京都工芸大、電通大、静大、豊橋科技大、専攻科（沼津）など個性のある大学群でした。この進路状況の結果から見えたもの。それは、われわれの指導方針の正当性。すなわち、社会情勢が変化し、企業が求める人材像が変わっても、それに振り回されることなく、われわれの提供する教育プログラムを確実に学生に対して実行すること。その一つ一つの積み重ねがこのような結果を生むのだということが。

次にビッグなニュース。全国プログラミングコンテスト（自由部門）でS科チーム（十時、市野、遠藤、栗田、持田（S5））が優秀賞ならびに企業特別賞をW受賞しました。この作品はデータ・グローブ型の入力デバイスであり、手による合図で部屋の「もの」とコミュニケーションできる現代版「魔法の杖」です。この作品は前年度の創造設計2008（S4）の自分たちの作品をベースにBlue-

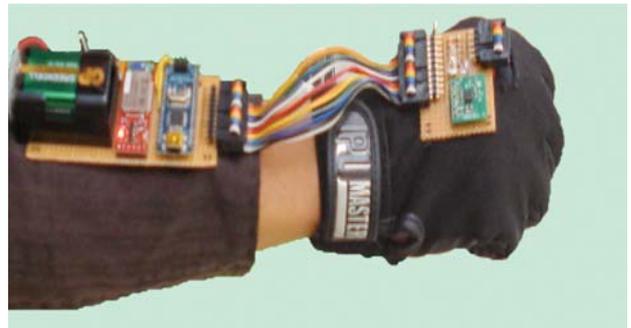
Tooth技術を投入しワイヤレス化を図ることで、より完成度の高いものにしたものです。審査員からは「特許もとれるのでは」とコメントをいただいたほどです。

この受賞は何を意味するのか。彼らの能力の高さは言うまでもありませんが、制御情報工学科の提供する教育プログラムが高いレベルであることが実証されたと観るべきでしょう。

さて、教育は教員と学生のコラボレーションです。今年度、制御情報工学科では教員の教育力向上プログラムは言うまでもなく、学生意識改革プログラム開発にも力を入れました。意識改革、それは簡単そうで難しい。われわれのとった手法は「一流のもの」と出会わせること。特別講演（全学年対象）、スペシャル授業（第3年次学生対象）などの企画を立てました。

まず、具志堅幸司先生（オリンピック金メダリスト）を招いた特別講演を実施予定（2010/2/26）。「夢」を本気で追い求めるとは何か？具志堅先生の一言一言が学生の心に深く刻み込まれることと思います。また、特別講師丸先生（明電システムテクノロジー）によるスペシャル授業。丸先生はETロボコン（SW設計を競う大会）でご自身の企業チームを全国優勝に導かれた第一線のソフトウェア（SW）アーキテクトです。当日の授業は、自動洗濯機の制御システムのソフトウェア設計から実装までを即興で行っていただくというもの。普段、SWアーキテクトの仕事の現場を観たことのない学生達。「場」の雰囲気から何か大きなものを感じとってくれたのではと思います。

以上、簡単ですが今年度の報告をいたしました。最後に、制御情報工学科スタッフについて。学生たちはわれわれをこう評する。気難しい、変人、毒舌、口うるさい、口が悪い先生だと。しかし、ずるいとは言わない。このような個性溢れる集団こそ「教育の原動力」だと私は信じる。来年度も制御情報工学科スタッフ一同、益々、その個性に磨きをかけて学生の資質向上に邁進していく所存です。保護者の皆様には今後とも一層のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。





## 物質工学科 平成21年度総評

物質工学科長  
押川 達夫

日頃は物質工学科の教育・研究にご支援を頂戴しております保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。平成21年度の物質工学科の総評を記したいと思います。

平成21年4月に初々しい新入生42名が入学してきました。また、新専攻科生として7名の入学生を迎えました。特に、本科1年生においては御殿場研修で「中学生生活とは大きく異なる環境に慣れる」ことを中心にメッセージを伝えてきました。彼らが大きく育ち、本科を卒業することを切に願っております。

平成21年度の学生進路についてご報告します。5年生の就職希望者は12名、進学希望者は25名でした。高専OB皆様の力量が高く評価されている影響もあり、全員内定を勝ち取りました。また同様に進学希望者においても東工大をはじめ様々な大学の第一希望大学に合格することができました。しかしながら、私達の取り巻く環境が大変厳しい状況になっていることはご存知の通りです。平成22年度の5年生に対する就職も厳しくなるのではと危惧しているところです。先が読めない実経済の中、高専卒業で就職するかあるいは進学して答えを先延ばしにするか、十分に本人と保護者と相談しながら進路決定を行っていきたく思っております。

就職する卒業生諸君へ！君達は世界経済が不況になる前の就職内定者である。就職企業先は厳しい環境である

ことに相違ない。甘えた気持ちは一切許されない状況であることを認識し、積極的に何でも引き受ける自己体制作りを行ってほしい。このような心構えを持っていれば、きっと君達は困難を打破できるだろう。

大学進学諸君へ！君達が大学院修了時には景気が回復しているかもしれない。しかし、油断はできない。精一杯研鑽を積むことが何よりの優先事項である。

物質工学科の教員組織に大きく変動がありましたのでご報告します。平成21年3月に望月教授が退職されました。平成21年4月に山根説子助教（有機化学・東京医科歯科大）が着任いたしました。山根先生は「材料化学概論（C2）・機器分析Ⅱ（C5）・材料コース実験（C4）」を担当しています。また、校務として寮務主事補をお願いしており、東京高専出身という経験をお持ちであることから女子学生の良き相談者として活躍されています。

平成22年度よりC科全学年の「新カリキュラム」の完全移行が終了し、新たなカリキュラムとしてスタートします。この狙いは既にご報告しているように、幅広い知識を持った技術者育成のために、コース別開講からコース融合開講へと移行するものです（コース別実験を除く）。

以上のように教員組織の変動と講義開講の変動に伴い、学生の教育の質を低下させることなく教員一同切磋琢磨しているところです。また、昨年度より低学年教育の創造性を重要視し、1年生の「物質工学入門」においてはChemistryに固執することなく、答えのない課題に対して自ら工夫・解決して自己完結する授業を実施しております。

物質工学科のさらなる発展を教員一同築いていく所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



## 平成21年度を振り返り

教養科長  
西垣 誠一

教養科長1年目を慌ただしく過ごしてまいりました。力不足からいろいろな方面にご迷惑をお掛けしながらも、教養科教員のバックアップ、そして何よりも前教養科長の勝山智男教授の適切なアドバイスのもと日々こなしております。

さて、今年度の教養科では一つの新しい試みを行いました。それは、他高専の学生との交流を目指したものです。他高専との交流と言えは高専体育大会を初めとする体育関係のものがいくつかありますが、今回の企画は「低学年の科学に関する好奇心を刺激するとともに参加者間の交流を図る。」という目的の下に行われたものです。すなわち、沼津高専教養科の小林美学准教授と東京高専一

般教育科の黒田一寿准教授のお二人が中心となり企画され、沼津高専教養科の教員数名も講師として加わり、沼津高専および東京高専の低学年（1・2年生）を対象に「第1回高専サイエンスキャンプ」という名のもとに、8月20日、21日の1泊2日の日程で、沼津高専において行いました。化学や物理の実験も行う関係から、多くを募集できなかったこともあり、今回は沼津高専・東京高専合わせて18名の参加ということで行いました。

内容は上記実験以外に、レクリエーションがあったり、「科学における思考法」という講義があったり、中には「数学100年の難問・ポアンカレ予想」などという学校の数学の時間には聞けないような講義もあり、参加者はそれぞれに満足したようでした。距離的な観点から、この企画は今のところ沼津高専と東京高専の間で交流を深めようという計画に留まっていますが、今回の催しには福井高専からも2名の先生が見学に来られ、「福井高専も参加したいですね。」というようなこともお話しされておりました。

ともあれ、いろいろなことを学ぶには基礎をしっかり

と固めなければなりませんので、学校の授業は興味ある話ばかりするわけにはいかず、学生にとって面白くないからといってやらないわけにはいかないものもたくさんあります。したがって授業ではなかなかできないような、科学に対する興味の動機付けをしようというのが、この催しの目的の一つというわけです。今年度は第1回ということでいろいろ反省点もありましたが、来年度以降も是非続けていこうと考えているところです。

次に、3月をもって沼津高専教養科を去られる先生方についてご紹介します。まず哲学の野澤正信教授が定年退職されます。野澤先生は昭和56年3月に沼津高専に赴任されて以来、29年の長きにわたり哲学を初めとする授業の他、一般科目主任、学生主事、寮務主事、図書館長など校務においても沼津高専のために尽くされてきました。この度定年退職を迎えられ、一つの区切りとなりましたが、実際には再雇用制度を利用して、後2年間は沼津高専に勤務していただけます。

次に英語の林剛司講師が退職されます。林先生は4年間というある意味短い間でしたが、多読による英語教育というそれまでの沼津高専には無かった英語教育を導入され、沼津高専の英語教育のためにご尽力いただきまし

た。この度は一身上のご都合ということで大変残念ではございますが、林先生の今後のご活躍を祈念しつつお送りしたいと思います。

もうお一方体育の高津准教授が1年間の人事交流の期間を終えられ、豊田高専にお戻りになられます。高津先生には物質工学科2年生の担任をしていただき、体育の授業のみならず学生指導の方でもいろいろとお世話になりました。先生のお人柄から、物質工学科2年の学生を初めとする多くの学生が別れを惜しんでいることと思います。豊田高専に戻られましてからの益々のご活躍をお祈りいたします。

最後に退職ではございませんが、英語の藤井数馬講師が高専間人事交流制度により、新年度4月よりの2年間、香川高専へ移られます。藤井先生には異なる高専における英語教育のみならず、学生指導や学校運営のシステムなどいろいろなことを学んできていただいて、2年後には沼津高専の更なる向上のために尽くしていただけるようエールをもってお送りしたいと思います。

以上思いつくまま書きましたが、教養科教員一同今後とも学生教育のため一生懸命頑張る所存ですので、よろしくお願ひします。



## 平成21年度を振り返って

専攻科長

芳野 恭 士

日頃より、専攻科生ご父兄の皆様には本校専攻科の教育活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。本校専攻科は平成8年度に設置されて以来、本年度で14年目となっています。平成22年1月現在での在籍学生数は、9月に2名が前期で修了したため、1年生31名、2年生32名の計63名であり、4月には新たに33名の入学者を迎える予定です。

専攻科では、機械・電気システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、応用物質工学専攻の3つの専攻を合わせて「総合システム工学」という単一の教育プログラムを学生に提供しています。本科で身に付けたそれぞれの得意分野の専門知識や技術に磨きをかけると共に、他の工学分野の学習も行うことでより視野の広い技術者の養成を目指しています。昨年度からは、異なる専攻の学生達がチームを組んで工学的問題の解決を目指す「複合実験」も始まり、より実践的な技術者教育に工夫を凝らしています。

この「総合システム工学」プログラムは、本科4、5

年の教育課程と合わせて日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けており、今年度はその継続審査が昨年の10月に行われました。最終的な審査結果が出るのはまだ先ですが、学生及び教職員の意欲と能力、充実した授業内容と教育施設について、審査員より高い評価を頂いたものと自負しております。

専攻科では、修了前に大学評価・学位授与機構の審査による学士の取得を修了要件としているため、修了生は大学卒業と同様の学士(工学)となります。昨年12月に行われた東海大学・静岡県立大学・日本大学・富士常葉大学等との合同研究発表会では、専攻科生が25件の研究発表を行っており、多くの大学院生を抑え本校の専攻科生がベストポスター賞を受賞しました。厳しい経済状況の中、専攻科生も進路の決定に苦勞しておりますが、平成21年度3月期修了予定者32名はすでに全員の進路が決定しており、就職内定者は22名(㈱エヌ・ティ・ティ エムイー、㈱タウンズ、セイコーエプソン(株)、㈱コマツ、㈱ポーラなど)、大学院等への進学者は10名(東京大学大学院、東京工業大学大学院、静岡県立大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学など)となっています。

より多くの本科生に専攻科を大学と同様に進学の重要な選択肢としていただけるよう、教育システムの向上に努力して参りますので、今後とも沼津高専専攻科をよろしくお願ひいたします。

# 部 活 動

## 第44回全国高等専門学校体育大会

種 目	種 類	全 国 大 会	
バドミントン	女子個人の部 シングルス	第 3 位	C 1 米 山 沙 弥
	女子個人の部 ダブルス	第 3 位	C 1 米 山 沙 弥 C 2 佐 野 友 美
水 泳	200mバタフライ	第 2 位	E 4 遠 藤 雄 也
	100mバタフライ	第 2 位	E 4 遠 藤 雄 也

## 第47回東海地区国立高等専門学校体育大会

種 目	種 類	地 区 大 会		全 国 大 会
陸 上	男子オープン種目1500m	第 3 位	M 4 福 田 克 也	
	男子走幅跳	第 3 位	D 2 伊 庭 達 哉	
	男子110mハードル	第 3 位	M 3 後 藤 将 斗	
テ ニ ス	男子団体の部	第 3 位		
	女子団体の部	第 3 位		
	男子個人の部 シングルス	第 2 位	C 5 江 崎 拓 真	
	女子個人の部 シングルス	第 2 位	C 3 竹 中 渚	
バドミントン	女子団体の部	優 勝		(全国大会出場)
	女子個人の部 シングルス	優 勝	C 1 米 山 沙 弥	(全国大会出場)
	女子個人の部 シングルス	第 3 位	C 2 佐 野 友 美	
	女子個人の部 ダブルス	優 勝	C 1 米 山 沙 弥 C 2 佐 野 友 美	(全国大会出場)
ソフトテニス	男子個人の部	第 3 位	E 5 前 島 直 人 E 4 小 西 颯 太 朗	
サ ッ カ ー		優 勝		(全国大会出場)
柔 道	団体の部 勝抜戦	第 2 位		
	男子個人の部 60kg級	第 3 位	M 4 伊 藤 洸	
	男子個人の部 73kg級	第 2 位	E 2 伊 藤 颯 斗	
	男子個人の部 73kg級	第 3 位	S 4 小 林 亮 太	
バレーボール	男子の部	優 勝		(全国大会出場)
卓 球	男子団体の部	第 3 位		
	男子個人の部 シングルス	優 勝	C 4 石 川 岳	(全国大会出場)
	男子個人の部 シングルス	第 3 位	D 3 小 俣 克 之	
水 泳	総合	優 勝		
	男子総合	優 勝		
	女子総合	第 2 位		
	800mリレー	第 2 位	S 1 川 口 大 地 S 4 紅 林 大 地 E 3 林 弘 樹 E 5 鈴 木 慶	
	400mメドレーリレー	第 2 位	S 1 川 口 大 地 D 1 村 串 一 郎 E 4 遠 藤 雄 也 C 2 鈴 木 卓 磨	
	400mリレー	第 3 位	E 4 遠 藤 雄 也 D 3 杉 山 和 暉 S 4 紅 林 大 地 C 2 鈴 木 卓 磨	
	800m自由形	第 3 位	E 3 林 弘 樹	
	200m自由形	優 勝	C 2 鈴 木 卓 磨	(全国大会出場)

種 目	種 類	地 区	大 会	全 国 大 会
水 泳	200m平泳ぎ	第 3 位	D 1 村 串 憲一郎	
	200m背泳ぎ	第 3 位	S 1 川 口 大 地	
	200mバタフライ	優 勝	E 4 遠 藤 雄 也	(全国大会出場)
	200m個人メドレー	第 2 位	E 3 林 弘 樹	(全国大会出場)
	100m自由形	優 勝	D 3 杉 山 和 暉	(全国大会出場)
	100m平泳ぎ	第 2 位	D 1 村 串 憲一郎	(全国大会出場)
	100m背泳ぎ	第 2 位	S 4 紅 林 大 地	(全国大会出場)
	100m背泳ぎ	第 3 位	C 1 金 子 喬士郎	
	100mバタフライ	優 勝	E 4 遠 藤 雄 也	(全国大会出場)
	50m自由形	優 勝	D 3 杉 山 和 暉	
	女子400mリレー	第 3 位	C 5 滝 幸 奈 C 4 富 田 陽 子 M 2 手 嶋 里 帆 C 3 土 屋 陽 香	
	女子100m自由形	第 3 位	C 5 滝 幸 奈	
	女子100m平泳ぎ	第 2 位	C 3 土 屋 陽 香	
	女子50m背泳ぎ	第 2 位	C 5 滝 幸 奈	(全国大会出場)
	女子50mバタフライ	第 2 位	C 3 土 屋 陽 香	
バスケットボール	男子の部	第 2 位		
空 手 道	総合	第 3 位		
	団体戦 組手の部	第 3 位		
	団体戦 形の部	第 3 位		
弓 道	団体の部	第 3 位		
硬 式 野 球		第 3 位		
剣 道	女子団体の部	第 2 位		
ハンドボール		第 3 位		

## 全国大会出場報告

### 全国大会出場報告

サッカー部 電気電子工学科5年  
杉 山 芳 臣

今年のサッカー部は、東海大会で優勝し、全国大会に出場することができました。

#### 東海大会

岐阜高専1-0、豊田高専0-1、鳥羽商船6-2、  
鈴鹿高専2-0

#### 全国大会

福井高専1-2

東海大会初日を終えた時点で1勝1敗、さらに2試合で1得点しかできずとても苦しい状況でしたが、2日目は2試合とも快勝することができ、得失点差でなんとか優勝することができました。

全国大会では福井高専を相手に決めるべきところを決

められず、連携ミスから失点してしまいました。一度は同点に並んだものの追加点を奪えず、逆に福井高専に追加点を決められてしまい、その後追いつくことができず、惜敗してしまいました。私たちに勝った福井高専は全国大会を勝ち進み準優勝しましたが、勝てない相手ではなかっただけにとても悔しい結果になりました。

私は去年の12月に捻挫をしてから、肉離れ、ヘルニアと怪我に悩まされ続け、練習にあまり参加できない日が続き、試合にも出ることができなかつたりと迷惑をかけたのですが、留年してよかったと思えるくらいとても充実した一年を過ごすことができました。サッカー部のみんなには本当に感謝しています。それから遠くまで応援に来てくださった方々本当にありがとうございました。

今年は全国大会で楽しい試合を見せることができなかったのですが、来年は見せてくれると思いますので、来年も応援お願いします。

#### メンバー

- 1 天田剛士、
- 2 福田真大、
- 3 勝間田智之、
- 4 杉本薫平、
- 5 長屋浩介、
- 6 塚本優、
- 7 永谷大祐、
- 8 山田裕之、
- 9 植田翔士、
- 10 佐々木涼、
- 11 杉山芳臣、
- 12 土也知輝、
- 13 森川智貴、
- 14 酒井正亮、
- 15 遠藤直貴、

16 森川誉也、17 山本直弥

**主務** 八木彩織、山梨友里恵、秋山佳澄、吉澤真美、佐藤由里花

**サポート** 田村怜史、山本繁樹、工藤徹也、鳥澤 健、庄中康太、松蔭優作、後藤大輝、小林憲明、森 大洋

**チームトレーナー** 曾根さん

**監督** 坂井さん

**顧問** 駒先生、江上先生、中道先生、永禮先生

**スペシャルゲスト** 校長先生、大原先生、加藤繁先生ご夫妻、森下さん、リチャードさん、中村さん、木暮君とその友人達、山田君・永谷君・塚本君・山本君のご両親。

## 水泳部のH21年度全国高専大会 in宮崎

水泳部 電気電子工学科4年  
遠藤雄也

僕にとっては4回目になる全国大会の今年の開催場所は、宮崎県でした。僕にとっては初めての九州上陸でした。また、今回は選手だけで7名、マネージャー、引率・視察教職員を含めると13人という大所帯での旅になったので、とても賑やかで、楽しい大会になりました。

僕の結果は、100mバタフライでは58秒で2位、200mバタフライでは2分13秒で同じく2位でした。去年度は同種目で2位、3位だったので、200mのみ成績が上がったこととなります。タイムは去年から100mで約2秒、200mで約8秒も縮めているのですが、スポーツというのは、そんなに甘いものではないのだと実感しました。ですが、今回は今までで一番嬉しく、また一番悔しい表彰台になりました。

今回は、表彰台を降りた後に泣いてしまいました。実は、僕は今まで15年程水泳をしてきましたが、大会などで勝っても負けても、涙を流すことはありませんでした。きっと勝負に関心が無かったのかも知れません。ですが、今回は泣きました。とてもお恥ずかしい話ですが、表彰が終わった後、しばらくの間動けませんでした。これが、激しい勝負の末、手に入れた2位の喜びの為なのか、それとも苦しい練習をずっと続けてきたのに1位になることができなかつた悔しさからなのか、それとも、こんな自分のことを一生懸命に応援してくれた水泳部のみんなへの感謝の気持ちなのか……。色々な感情が織り交ざり、気付けば涙を流していました。初めての経験で戸惑いましたが、そのあとはスッキリして、みんなと笑って帰ることが出来ました。この経験は一生忘れることは無いでしょう。本当に良い経験をさせていただきました。

今後の水泳部の課題は、決勝への人数を増やすことだと思います。来年、再来年と、もっとたくさんの方が、決勝に出られるようになって欲しいです。そのためには、普段の練習の向上及び個人の泳力の向上が必要不可欠になってくると思います。来年度の全国大会は、沼津高専が開催校となり富士水泳場で行います。そのため、開催

校枠を用いて、僕達は東海大会で勝ちあがった選手とは別に、各種目一人ずつ全国大会に参加することができます。ですから、全国の名に恥じないように、水泳部全体としてのレベルを上げる必要があります。

しかし選手のレベルにも差があるので、高いレベルでの練習と、初心者でも出来るような練習を両立させなければなりません。とても難しいことだと思いますが、速くなることだけが水泳ではないと思っているので、皆で楽しく、ときに厳しく部活動を行ってほしいと思っています。その中で、選手同士が切磋琢磨し、いつかはリレー種目で全国の舞台へ、そして優勝できるようにしたいと思います。そのためにはまず、部員全員が練習に来ることが必要だと思います。年々、着実にレベルは上がっているので、少しずつ頑張っていこうと思います。

僕は来年度で5年生になるので、最後の部活動になります。しかし編入試験や卒業研究などで、なかなか泳ぐことが出来なくなるかもしれません。全国大会で表彰台に上ることすら危ぶまれるかも知れません。できれば優勝をしたかったのですが、現実というのはそう甘いものではないと思います。ですから、自分なりに努力をしつつも、この夢は後輩達と叶えたいと思っています。後輩達には、もっとたくさん泳いで、もっと部活動を楽しんでもらいたいと思います。そして、泳ぎの速い新入生がどんどん入ってくれることも期待します。

悔いの残らないように、そして、沼津高専水泳部にいたことを誇りに思えるように、皆でたくさん泳いで、たくさんの思い出をつくっていきたくと思っています。



## 初団体戦出場を経験して

バドミントン部 物質工学科2年  
佐野 友美

バドミントン部は、東海大会で女子団体・ダブルス・シングルス優勝、シングルス3位と良い成績を収めることができました。全国高専大会では、東海地区を代表して女子団体・ダブルス・シングルスの出場を果たしました。

私は、高専入学前からバドミントンをやっていたとはいえ、団体戦に出場したことがありませんでした。部活としては久しぶりの出場ということです。今回、東海大会に女子団体をエントリーさせてもらえた時は嬉しい気持ちでいっぱいでした。女子部員は少なかったため、6人全員がメンバー登録をしました。東海大会に団体戦が出場することが分かってからより練習に力が入りました。しかし一方で、自分に対して大きな不安がありました。去年大会を見て、全ての試合に出場し、勝ち進んでいた人の何人かは脚の負担が大きくなり、脚を攣ってしまっていたからです。私たちは、体力・技術向上のため、男子の先輩方と混じり練習を積み重ねました。

## バレー部全国大会出場への軌跡

バレーボール部 機械工学科5年  
宇佐美 宏 顕

私は3年次の高専大会後からキャプテンを務めていましたが、5年次の高専大会までずっと同じモチベーションで活動してきた訳ではありません。正直なところ、自分が4年次(2008年)の高専大会は5年生がいないため、どうでもいいなと思っていました。しかし、その高専大会が終わると、次は自分が出場できる最後の高専大会です。私はチームの目標を東海大会優勝としました。そして、皆もそれに賛同しました。しかし、私たちは2009年1月まで、それまでと同じように練習していました。この1月は私たちのチームにとってターニングポイントとなりました。このターニングポイントが無ければ、私たちが優勝することはありませんでした。

そのターニングポイントというのは、当時キャプテンだった私と部長との練習に対する考え方の違いからの喧嘩でした。部長は練習を放棄し、退部すると言いました。数週間後、私と彼は互いの考えを洗いざらい話し合いました(数週間後、彼は戻ってきて優勝に欠かせない存在となりました)。その中で、私は自分自身の欠点に気付かされました。それは『言葉足らず』ということです。そのため、チーム全員が優勝に向けて同じ考え方・モチベー

東海大会は、鈴鹿戦が手強い相手との勝負でした。1ダブルス・2シングル。私は、シングルスに出ました。この時団体戦は最終戦で、鈴鹿との勝敗が全国への出場を左右する大事な試合でした。相手とのレベルの差は同じだったと思います。粘り強くシャトルを追いかけ、必死で一歩を踏み出してラケットにあてた一球が勝負を決めました。私が優勝を手にするのができたのは、精神面が上回っていたからだと思います。このチームで全国へ行きたいというメンバー全員の思いが伝わっていました。寒気が背に伝わるほどでした。全国大会への出場切符を手にするのができた瞬間はみんなで大きな喜びを感じることができました。

全国大会は、緊張して思うような動きができませんでしたが、東海大会では味わうことのなかったものを感じることができました。これからの成長に繋がる良い経験だったと思います。現女子部員の全員で参加することにより、絆の深さ、仲間の応援、全員で一勝に繋ぐことの素晴らしさを実感しました。

今回、私が素晴らしい結果を出せたのは友達、先輩、両親、指導者の応援や支えがあったからです。みんなはとても心強い支えでした。支えあえるような素晴らしい部活の中でこれからも男女ともに切磋琢磨していきたいです。

ションではなかったのです。つまり、チーム全員が同じゴールを漠然と目指していて、あるものは間に合わないスピードであったり、あるものは脇道に入っていたりしていたという事です。私は不覚にもその事実気付いていませんでした。しかし、同時に私の考えていることをチームメイトにできる限り正確に伝えることができれば、必ずこのチームを優勝に導けると思いました。私はそれほど真剣に『優勝すること』について考えていました。そこで、私が思いついたのは“携帯日報”でした。この日報の大きな目的は①優勝というゴールを一人一人の中で明確なものにする、②個人に合った道しるべをたててあげることで日々の練習に目的意識を持って取り組んでもらう、③やらされているではなく、やりたい部活へ自発的に動くように、の3つと私はしました。

そのうちに、3月がきて春休みとなりました。私は、現状の個々の技術では優勝することは難しいと考えていました。そこでチームの力を底上げするために筋力や基礎体力を上げることが欠かせないと思いました。そこで、春休みはボールを使う練習ではなく筋トレとランニングをひたすらやりました。このような地味なトレーニングの決行ができたのは、日報によるモチベーションの向上と、意思の疎通からきていることは明らかでした。

新学期に入ると、ボールを使った練習を始めました。ボールを使った練習では基本に忠実に行いました。厳しい練習もやりましたが、春休みの過酷なトレーニングを乗り越えた私たちにとって厳しさは楽しさになっていま

した。

高専大会はあっという間にきました。1日目を全勝で終え、2日目は優勝候補の鈴鹿と鳥羽との試合でした。鳥羽にはあっけなく勝ったのですが、鈴鹿戦では苦戦を強いられました。鈴鹿とは3セットの末、私たちの逆転勝利でした。その後の東海北陸決定戦も富山商船に勝利することができ、私たちは全国大会に行く事ができました。

前年度4位のチームが次の年になぜいきなり優勝できたのか？この謎が純粹に浮かび上がってくると思います。その答えは簡単です。私たちのチームは『全員』で戦っ

ていたからです。コートの中で必死にボールを追うスタメン、ベンチから本気で声を出してくれる下級生、チームの団扇を自腹で作ってくれる観客席の下級生、遠方から集まって本気で応援してくれるOB、コーチ、先生。全員が優勝に本気であったから私たちは全国に行くことができました。全ての方に感謝です。

最後に、紙面をお借りして、全国大会旅費のご支援をいただきました沼津高専教育後援会の皆様、バレー部OBの皆様、沼津市の皆様に、心より感謝の意を述べさせていただきます。ありがとうございました。

## いくつかの思ったこと

卓球部 物質工学科4年  
石川 岳

今回も卓球競技男子シングルの部で全国高専大会に出場した、ということで執筆させていただくことになりました。ここでは、全国高専大会に出場する際に思ったこと二つを書かせていただきたいと思います。ですが、全国高専大会の結果は生産性のある話になりそうなので、触れません。

一つ目のこと。冒頭にも書きましたが、僕は今年度の全国高専大会へ出場することができました、というより今年度も全国高専大会へ出場することになりました。今年で4回目になります。今年度は今までにないほどの接戦で、苦しい思いをしながらも勝利した記憶があります。しかし、正直なことを言いますと、僕はそれほど練習をしておりません。4月当初は部活へと参加していましたが、寮生会企画長と学生会会計という二つの役職を兼任していることもあって、すぐに行かなくなりました。練習と呼べるものは試合前の2週間に集中的にやった記憶しかありません。しかし僕は勝ちました。何故勝てたのでしょうか？

実は隠れて練習をしている……などというオチはありません。勝てる人と勝てない人の差。僕は、それは卓球というスポーツをどこまで理解しているか、の一言に尽きると思います。足の運び方、呼吸の間、試合相手の観察、試合の入り方、セット間の使い方、ネットの張り方、

ジャンケンの手の出し方……etc. 挙げればキリがないですが、卓球を構成している物事のなかには技術とは直接関係ないことが数多くあります。練習はもちろん、長い間考えを張り巡らすことがこれらのことを獲得するのに必要です。一方、これらのことは一度獲得すれば、なかなか失われるものではない、いわば「コツ」のようなものです。この「コツ」をより多く掴むことで、下手になりにくい選手になります。もし、本当の意味で下手にならない選手がいたとすれば、その選手は卓球の本質を理解している、ということになると思います。当然僕はまだその境地に至っていません。要するに、自分がやるスポーツのことならもっとよく考えろ、基本さえできていればなんとかなる、ということです。

二つ目のこと。僕は卓球が好きです。しかし、何が何でもがんばってやりたい程ではありません。そもそも本当に卓球をやりたかったら高専には入りません。何言ってんだコイツ、と思う方もいるかもしれませんが、正直な話、僕は今回の高専大会への出場にノリ気ではありませんでした。流されるように生活していたのが祟ったのか、結局出場することになってしまいました。特に勝りたい気持ちが強くなかったのですが、皆の前で無様に負けるのは死んでも嫌でした。だから勝つことにしました。理由としてはこの上なく不純ですが、これも一つの信念というよりは意地です。

今回、全国高専大会に出場したことに関連して書かせていただきましたが、ここから何かを読み取ってもらうことが期待できるものではありません。最後まで読んでくださった方、ありがとうございました。

## 行事・コンテスト・その他イベント

### 体 育 祭

#### 一味違った体育祭

体育祭実行委員長 電子制御工学科4年

田 中 弥

今年度の体育祭は天気にも恵まれ、前後期ともに無事開催することができました。例年6種類の球技やリレーなどの競技で盛り上がる体育祭ですが、今年度は少し、今までと違うところがありました。毎年行われてきた学科対抗リレー、学科対抗綱引きに代わり、新たな2種目が行われたことです。

一つ目は、クラブ対抗リレーです。各クラブの代表者5人でバトンをつなぐこの競技ですが、バトンがボールだったり、竹刀だったり、管楽器だったり、あるいはおんぶされた部員だったりとのクラブも工夫を凝らし大変おもしろいレースとなりました。レースの最中に陸上部や野球部、サッカー部などが圧巻の走りを見せれば、他のクラブからは驚くようなパフォーマンスが飛び出します。大道芸を見せながら走る卓球部、倒立したまま足ではなく手でトラックを周る体操部、水着姿でグラウンドを走る水泳部、そしてアンカーを自分たちで作ったロボットに託すロボコン部など、どのクラブも色々な手段で観客を楽しませ、大盛り上がるのレースとなりました。

### 高 専 祭

#### 第44回高専祭を終えて

高専祭顧問 野 毛 悟

平成21年11月7日～8日の2日間、第44回の高専祭が開催されました。今年度の活動をふり返りご報告させて頂きたいと思います。

高専祭を運営する実行委員会は本部以下12の部局から構成され、それぞれが明確な役割分担をもって準備から高専祭本番、片づけを行っています。それぞれの部局には部局長（通称：おさ）がおり、一般スタッフが各長を中心に活動します。スタッフの総勢は約200名にもなりません。

今年度はテーマとして「衝撃」を掲げました。平常を打破し、学生一人ひとりが内に秘めたパワーを発露し、衝撃を与えようという思いが込められています。今年は例年と異なり日程的にタイトなスケジュールの中の開

二つ目は、クラス対抗長縄跳びです。基本は、自由参加であるにも関わらず、本当にたくさんの学生が参加してくれました。クラス皆で団結して何か成し遂げたくて、というクラスもあれば、人数×跳んだ回数で各クラスにつけられるポイントでトップになり賞品を獲得したくて、というクラスもあったようです。どのクラスも息を合わせてできるだけ多く跳ぼうと頑張ってくれました。特に1年生のクラスが100回以上跳んだことには驚きでした。5年間同じメンバーで過ごすクラスの仲間たちでのいい思い出となっていたら嬉しく思います。

いつも通りの球技と新たなリレー、長縄とが行われた今年度の体育祭ですが、どの種目でも5年生の活躍が際目立ちました。いくつもの種目でベスト4に勝ち進むクラスや、クラスほぼ全員で長縄に挑戦して大きな記録を残したクラスも5年生のクラスばかりでした。体育祭のあとの5年生から「楽しかった」という声も聞くことができました。

普段運動とは少し縁の遠い高専生ですが、体育祭ではたくさんの人が思いっきり体を動かし、思いっきり楽しんでます。多くの学生が楽しみにしているこの体育祭というイベントがこれからもずっと続き、もっとたくさんの人に楽しんでもらえたら、というのが僕の願いです。

来年度はぜひ自分自身が、主催者としてではなく、参加者として思いっきり楽しみたいと思います。そして僕以上に全学生が心から楽しんでくれたら幸いです。

催となりました。本部役員とのミーティングでは、「完成度の高い高専祭を開催することができるのか？」ということが常に議論されました。準備と片づけにかけられる時間が短縮されたというプレッシャーは本部役員を中心に多くのスタッフが感じていたことと思います。どうすればこの状況を乗り切れるのかということに正面から挑み、模索しながら懸命に努力を重ねてきました。さらに今年は新型インフルエンザの流行があり、本校でもその対応を余儀なくされました。準備活動ではマスクの着用はもちろんのこと、手洗い、うがいの徹底を指導しました。それでもなお、「本校の地域周辺でインフルエンザが蔓延してしまったら……?」「高専祭は無事に開催できるのだろうか?」という不安と緊張の連続でもありました。こればかりは本当に祈るしかありませんでした。それでもスタッフの願いが届いたようで、高専祭期間中はインフルエンザの猛威にさらされることもなく、天候にも恵まれ、学生が自らの手で準備したことの全てをやりきることができました。

今年はテーマ「衝撃」に相応しい活動をしようということで、顧問から本部三役には重要なミッションを出し

ました。それは、「全学生が参加しないと成立しないようなイベントを企画し実施してほしい」ということです。高専祭は学生のお祭りですが、最近の学生の気質をみると、参加する学生に「温度差」があることは残念ながら否めません。スタッフやクラブ単位で活動する学生には楽しむ術があるのですが、これらに属さない学生には他人事になりがちです。この状況を打破するような「衝撃」を作り出そうというのです。今年は「ギネスに挑戦！」という形でミッション完遂を目指しました。チャレンジするテーマの選定、ギネス協会との交渉、イベント準備の全てを、実行委員長を中心とした本部学生が行いました。結果としてギネス記録の更新は成りませんでした。しかしながら、学生だけの力で、本校の学生のみならず一般の方々を含め1,100名を越える（記録更新には1,218名が必要でした……残念！）人たちを相手にしてイベントを実施するという困難な問題にチャレンジしたことは永い高専祭の歴史の中でもほとんど無かったことです。

## 祭り馬鹿

高専祭実行委員長 物質工学科5年  
福田 洸平

毎度おなじみ第44回高専祭実行委員長福田洸平です。

今年度の高専祭は例年と異なることが多く、実行委員長としては反省点の多い高専祭となりましたが、祭り馬鹿の福田洸平としてはとても楽しいものでした。

久しぶりに行うこととなった全校企画では人数が集まらなくてギネス記録更新とまではいきませんでした。あれだけの高専生が集まってくれるとは思ってなかったので驚きました。正直、もっとサボったり参加しない人が多く出ることを予測していたのですが……そんなことを言うとサボればよかったとか言い出す人も出てくるかと思いますが、そういう奴は高専だよりなんぞ読まないと思うので気にしません。まあ、自分は後2年間専攻科生として沼津高専に残る予定なのでその2年間で何かド派手にやってやろうと企てているところです。

さて、そんな感じで高専祭が大好きな俺ですが、高専祭を好きな理由の一つとして、「祭りを通じて様々なことを学ぶことができた」ことが挙げられます。大切なこと

それほど「衝撃」的な出来事だったのです。結果だけを見れば失敗と言われるかもしれませんが、それはたまたま運がなかっただけです。スタッフ学生の日々の努力は本当にかげがえのない貴重なものです。歴代の実行委員会が成し得なかった全学生参加のイベントの第1歩を記したこと、その事実にはプライスレスの価値があると思います。

第44回の高専祭に多くの学生がスタッフとして参加しました。高専祭開催に至る過程で味わった苦労や困難、友人との連帯感や達成感はこの活動に関わった学生全てにとって貴重な経験になったことと思います。このチャレンジを糧に次のステップへと踏み出してくれるものと期待しています。

最後になりましたが、第44回高専祭を開催するに当たり、ご支援、ご協力を頂きました校長先生をはじめ教職員の皆様に紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

は全て、寮生活でも普段の学校生活でもなく祭りから学びました。そして5年間の高専祭活動の集大成として学んだことは、何事も楽しんでやるということでした。なんか馬鹿丸出しですいません……でも、すごく単純なことなのだけれども、実はとても重要で生きていくうえでこれだけは常に忘れてはいけないことだと感じました。実は実行委員長をやったのも、楽しそうだからでした。実行委員長という大役に就きたかったからでも、実行委員長として何かをやりたいからというわけではありません。ただ、純粹に楽しそうだからでした。そして、実際に楽しく有意義なものでした。一つ心残りなことがあるとしたら高専祭の1週間前くらいから楽しむ余裕がなくなり、仕事だから行動するようになっていた自分がいたことです。原因は自分のキャパシティを超える状況を作り出した自分にあっただけで余計に心残りです。楽しいと感じる気持ちは何においても最大のエネルギー源であることを高専祭を通じて下級生に伝えることができていたら幸いです。

最後に今年度高専祭に関わってくださった皆さま、本当にありがとうございました。今年の高専祭のテーマは「衝撃」だったので、なにかしら記憶に残る衝撃が高専祭中にあったと感じてもらえれば実行委員長としては嬉しいです。良い衝撃でも悪い衝撃でもな！

## 3年合宿研修

### 3年スキー合宿研修報告

3学年担任合宿研修担当 眞 鍋 保 彦

今年度の3年スキー合宿研修は、平成22年1月12日から1月15日まで3泊4日で行われました。研修場所は岐阜県高山市にある国立乗鞍青少年交流の家です。この施設は標高1,500メートルほどの場所にあり、この時期の外気温は終日氷点下となります。このような中、3年生が雄大な自然の中でスキーを通じた研修を行ってききましたので報告します。

研修の参加者は3年生と引率教職員をあわせて約220名でした。乗鞍青少年交流の家は研修施設ですから、旅館やホテルとは違い、清掃やベッドメイキングなど、すべて研修者自らが行わなければなりません。施設を出るときには、次の利用団体のために清掃を行い明け渡しする必要があります。当然、食事時間、入浴時間、消灯時間も定められています。ちょうど本校の寮生活と類似しています。また、この研修では現代の便利アイテムである携帯電話、携帯音楽プレーヤー、携帯ゲーム機などは一切持ち込み禁止としました。これは、研修期間中は友と語り合い協力し合ってほしいという指導方針からきています。それでは、以下、時系列で簡単に様子を報告します。

1日目は移動日でした。ほぼ定刻に本校を出発後、目立った交通遅延もなく、無事施設に到着しました。すぐに講堂にて入所式が行われ、代表学生が今回の研修の決意表明を行いました。夜はアイスブレイキングと呼ばれ



### 有意義なひととき

電気電子工学科3年 庄 中 康 太

私の合宿研修は学校からの1本の電話で始まりました。実は、私は集合時刻を勘違いしており、学生や教職員の

るイベントがあり、施設の方が班単位でお互いに協力し合う大切さを教えてくださいました。

2日目の朝の気温はマイナス11度でした。この日から2日間のスキー教室が始まりました。教室に先立ち、インストラクターから自己紹介やあいさつがあり、学生はインストラクターの指導の下、大自然の中でスキーを行いました。夜は池上和樹講師による講演会がありました。池上氏は自らの人生経験を通じて、困難を乗り越える大切さを熱心に話してくださいました。講演には学生が熱心に耳を傾けていました。

3日目の朝の気温はマイナス12.5度でした。2日目より一段と厳しい寒さの中、引き続きスキー教室が行われました。基本的なことは2日目で習得したこともあり、初心者の方もスキーを楽しんでいたようです。夜は体育館でレクリエーションとして王様ドッチボールなるゲームが行われ、引率教職員も参加して楽しみました。

4日目となり研修最終日を迎えました。次の利用団体のために施設をきれいにし明け渡ししなければなりません。学生は協力し合いながら、隅々まで清掃を行いました。清掃後には施設の方による点検も受けました。引き続き講堂にて退所式が行われ、学生から施設の方へお礼を述べ、施設の方からもあいさつがありました。その後、バスに乗り込み施設を後にしました。当初の予定ではこの後、世界遺産である白川郷を見学する予定でしたが、降雪の影響により断念せざるを得ませんでした。その代わりとして高山市内の見学を行いました。多くの学生はこちらでおみやげを買っていたようです。

また、4日目の移動日を除いたすべての日には、クラス単位での研修時間が設けられました。この時間は各クラス独自の研修が行われたため、学生たちは充実した研修生活を送れたことと思います。

なお、研修期間中、若干名の負傷者や体調不良者が出ましたが、いずれも深刻なものではなく、全員が同じバスで本校に戻りました。

今回の研修の目的は(1)己に挑戦し、物事を成し遂げる大切さを学ぶ、(2)5年の課程の半ばを終えるに当たり、高専生活の意義を見直す、(3)親睦を深め、お互いを認め合う、の3点でありましたが、いずれも達成できたと感じています。

最後に、今回の研修に当たり、保護者の皆様、関係教職員の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

方々に迷惑をかけてしまったのです。深く反省しおわびいたします。同時に自分を見つめ直す良い機会となりました。

往路途中に寄った、ひるがの高原サービスエリアでは雪でかまくらが作ってありました。実際にかまくらの中に入り、暖かさと自然の素晴らしさを体感しました。同じ東海地方とは思えませんでした。高山市内の道路では、

雪の対策により縦になっている信号機を初めて見ました。

施設に到着し一面に積もった大雪を目にした私は、興奮して、いてもたってもいられなくなり友人と雪合戦やソリを楽しみました。雪が深い所では下半身が雪の中に埋もれるなどしましたが、久々に雪との触れ合いを満喫しました。

アイスブレーキングでは、5学科からなる10人ほどのスキー班に分かれて自己紹介を兼ねたゲームを行いました。私の班はすぐに打ち解けてゲームを楽しむことができました。

その後のクラス別研修では、自分の未来予想図について考える時間がありました。人生は何が起こるか分からないからこそ面白いのですが、努力して自分の思い通りになれば、それはそれでまた違った喜びを得ることができます。簡単にあきらめてはいけなと改めて誓いました。

就寝時は、正直なところ、寒さと不慣れな環境のせいであまり眠れないことがありました。しかし、そのことで逆に心身ともに強くなれた気がします。

楽しみにしていたスキー教室の日となりました。気温マイナス12度、海拔1,500メートルでしたが、雪が降っていたおかげで予想よりも暖かでした。初めはブレーキをかけても止まれず、班員に突っ込むこともありました。しかし、インストラクターの方の丁寧な指導のおかげで徐々に上達していきました。それに加えて班員とコツを教えあったり刺激しあったりし、切磋琢磨しながらできたことも上達の大きな要因だと思います。インストラクターの方の格好良い滑りを見ては、技を盗んで真似をして滑りました。片足で滑ったり足の開閉を行ったりと、すぐにスキーに慣れていきました。同じ施設に泊まった盲学校の生徒達のスキーが上手でしたので、圧倒されました。リフトの上から見下ろす景色には感動しました。木々が雪化粧をし、陽に照らされ輝いていたのです。

空き時間には他学科の人たちとバスケットボールをして親睦を深めました。また、一緒に泊まった中学生がとても元気のよい挨拶をしてくれましたので、気持ちよく



なりました。改めて挨拶の大切さを勉強させられました。

講演会では講師の方から人生の1つの生き方を学びました。その方は、夢中になったことが一度もないそうです。その分、様々な物事に挑戦する方でした。私は広い視野をもつことと、行動することの重要性を教わることができました。

スキー最終日には、ストックを使わないで滑ったり反回転して後ろ向きで滑ったりして、自分の限界に挑戦しました。まさか自分がここまでスキーに熱中するとは、想像できませんでした。指導者同様のスキーができれば褒められましたので、嬉しかったです。最後に雪にダイブして別れを告げました。

最終日は白川郷見学の予定でしたが、雪の影響で飛騨高山散策となりました。せっかくの機会でしたので、最高級飛騨牛を食べ贅沢気分を味わいました。

帰路の電車では、2年生の友人と会いましたので、来年を楽しみにしている友人に土産話をしました。帰宅しますと、気圧の変化でペットボトルがつぶれていました。

出発時を除き、4日間自主的に5分前行動ができました。今回の研修では、物事を成し遂げる大切さを学びました。さらに高専生活の意義を見直せました。あっという間でしたが、大変意味のある4日間でした。最高の思い出をつくれましたので、満足しています。

## ロボットコンテスト2009

### ロボコン部だより

ロボコン部顧問 望月 孔二

ロボコン部の活動を報告いたします。

この部の最大のイベントは、アイデア対決・ロボットコンテスト（ロボコン）への参加です。2009年の課題名は「ダンシングカップル」であり、内容は2台のロボットで決められた課題（ダンス）に取り組むものです。

このところ課題が年ごとに困難なものになりつつあり、

昨年度にはついに二本足歩行が課せられて史上最高の困難さだと思っていたところ、今年は二本足でダンスをせよという更なるレベルにまで来てしまいました。

これに対して本校の2チームは、どちらも大型の足で重心移動無しに歩行する二本足ロボットで取組み始めました。しかし、製作前に出すべきアイデアシートから苦しみ、ようやく製作を始めても遅々として進まず、追い込みの時期には部員のインフルエンザによって活動が停止されたこともあるなど、大苦戦でした。

一方、苦戦していたのは沼津だけではありません。その証拠に、今年はアイデア提出の期限が延ばされ、始まった東海北陸大会でも、動かないロボットが続出しました。そんな中で本校の2チームのロボットは「それなり」に

動作し、どちらも1回戦を勝ち抜いたのですから、面目も少しは保てたのではないのでしょうか。しかし、どちらのチームも2回戦で敗退してしまいました。

こんな難度の上があった大会の中でも、工夫で乗り越えているチームもあるのは驚きです。いわゆる“強豪校”が定まりつつあるように思います。残念ながら沼津は強豪校ではありません。(最弱のチームというわけでもないとも思っています。)いつかはこうした状況を打ち破りたい。しかし、現在の状況は、個々の学生だけの努力だけで打開できるものではないでしょう。部内のシステムや、学校あるいは地域との連携までもが、その高専のロボットの強さに関連しているように思えます。そんな中で私も顧問として出来るところから改革を進めたいと思います。

さて、ロボコン部のその他の活動についても少し記したいと思います。

### 【その1 交流ロボコン】

ロボコン部は春休みに「交流ロボコン」に毎年参加しています。(大会の詳細は「交流ロボコン」でウェブ検索してください。)この大会は、主に関東地区のロボコン好きな高専生が集まって、自らルールを定めて、ロボット



## 無念のロボコン地区大会

機械工学科3年 加藤 真吾

NHKロボコンでは昨年度からタイヤを使い移動するロボットではなく、歩行するロボットによる競技を行っている。このようなロボットはタイヤを使い移動するロボットよりはるかに製作が難しくなる。また、歩行するロボットは昨年度に一度製作しただけであり、我々の持っているノウハウはあまりにも少ない。

今年度のロボコンのテーマは「ダンシングカップル」。ルールは2台のロボットで歩く、回る、ジャンプ、ポーズを決めるなどの課題があり、課題をクリアした得点で勝敗をきめるものである。ロボットは課題をこなせるだけではなくテーマの「ダンシングカップル」に沿うように何かしらのストーリーを持ち、課題をこなしながらそのストーリーを演じなければならない。歩行に関しては実際にいる生物に模していないといけなくなったので、参考にしてきた他高専の機構がいくつか利用できなくなった。

競技課題が難しくなることもあり、今年度からは専攻科のロボコン部OBにコーチとして手伝ってもらった。アイデアを出して何度もミーティングを重ね、アイデアを2つにまとめていきチームが決まった。

羽衣伝説をテーマとして得点の高いジャンプを目指すAチームと、自作のペンギンの物語をテーマとしてジャンプ以外の課題を無難にこなしていくBチームとの2チ

eamを作って、大会の優勝を争うものです。学校を超えてチーム編成をしますので、技術交流の場にもなっています。大会会場(昨年度は赤城少年自然の家)を確保するなど、運営まで学生による手作り大会が運営されています。もちろん、指導教員の適切な助言も入っています。この大会を見ていると、学生たちが好きなことをするときには発揮される力の強さや、その多様さに感心しきりです。この春は、オリンピック記念青少年総合センターで実施予定です。

### 【その2 テレビ出演】

平成21年5月にSBSテレビの「みちぶらっ!静岡十八番」という番組に出させて頂きました。あのコメディアンのパックンマックンが出演している番組です。こういう縁が少しは沼津高専の宣伝の役に立っただけでしょうか。高専によっては年に約10回もロボットの出張・展示をするとのこと。沼津のロボコン部はまだまだです。

### 【展示コーナー】

図書館内に今年度からロボコンの展示コーナーを作させて頂きました。せっかくこうした機会を得たのですから、以前にも増して全国大会への出場に向けて努力いたします。今後ともよろしくご声援をお願いいたします。

ムで大会に出ることになった。

ロボット製作の過程でうまくいかないことは多くあった。まず、アイデアとチームが決まった時点で、ロボットの具体的な構想が十分に出来ていなかった。つまり、ロボット製作前からおけているというかなり悪い出だしになってしまっている。寮の大掃除期間には掃除が終わらないようなら部活を休んでいいと部員に伝えたら、しばらくの間部活は2~4人程度で活動する羽目になってしまった。ここまで居なくなるとは予想していなかったため、予定よりも遅れてしまった。9月のテスト前の休日には部員の2人がインフルエンザにかかってしまい、部活停止になってしまった。テスト明けすぐに大会なので、この活動停止はかなり痛かった。

大会の2日前になってもA、Bチームともにロボットは大方出来上がっているものの、改良の余地は十分にあり、練習もほとんどできてない状態だった。この日はロボットをトラックに積み込むことしかできないため、このような状態で大会に出場しなければならなくなってしまった。

大会前日は会場で準備やリハーサルをすることになっている。会場に入り準備をしているとロボットのパーツを忘れたことに気が付いてその対応策をとったり、回路やロボットの不具合を直したりしてかなり慌ただしくなってしまった。ちなみに大会には全部で20チームが出場するので先に1回戦を1試合行うことになっている。そして沼津高専は2チームとも1回戦にあたっているのが最悪開始早々に終わってしまうことになる。

そして不安を抱えたまま大会当日、問題の1回戦は沼

津高専は2チームとも課題がこなせず、得点は0点であったが、対戦相手も同じ0点だったので審査員の判定に持ち越しになり、勝利することができた。1回戦目の相手はろくに動けず0点であったから判定で勝つことができた。そのため、2回戦目以降は得点を挙げるができなければ負けてしまうと考えたが、学校で行った練習でさえろくに得点できなかったので余計に不安になってしまった。

## 第5回沼津高専英語スピーチコンテスト

9月5日(土)、本校「第一視聴覚教室」において、「第5回校内英語スピーチコンテスト」が開催されました。以下がその結果です。

- 1位 片山晃次郎 (D2)
- 2位 伊藤 敦 (D5)
- 3位 赤沼 亮介 (S3)
- 特別賞 (校長、教務主事より)  
宮川 綾音 (M1)

1位の片山君と2位の伊藤君については、11月14日(土)に岐阜高専で開催された、「第3回東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト」に出場しましたが、残念ながら全国大会出場権は得られませんでした(12名中、1位と2位が全国大会に出場)。

## スピーチコンテスト

電子制御工学科2年 片山 晃次郎

今回、僕は高専スピーチコンテストに出場し、東海北陸大会まで進むことが出来ました。しかしその大会ではまるで通用しませんでした。僕は昔から英語が好きで、また得意でもありました。私塾の講師である両親の影響もあって、小学生のころから英語に親しんできました。中学のときもスピーチの大会に参加し、県大会まで進む

## スピーチコンテストを終えて

電子制御工学科5年 伊藤 敦

初めて英語のスピーチコンテストに参加したのは中学生の時でした。正確には既に作られている文章を覚えて話をする暗唱大会でしたが、そこで英語を使用して話をすることの面白さを体感することができました。高専に入学した年、第1回目の校内スピーチコンテストが開催され、中学生の頃の経験を活かしたいという考えがあっ

そして、2回戦目には選手全員が何とか得点しようと努力したが不安の通りに2チームとも0点で終わり、相手チームは得点したので沼津高専は2チームとも2回戦で敗退してしまいました。

この結果は満足できるものではないが、ロボットの出来と練習の結果からある程度予想できた。勝つことよりも満足できるロボットをつくることが出来なかったことのほうが残念である。

なお、来年度の「東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト」は福井高専、再来年度は本校での開催となります。「校内スピーチコンテスト」の参加者は、ここ数年は固定化され減少傾向にありましたが、今年度は低学年から、新規の出場者がいました。今後も、学生の参加についてご協力をいただけたらと思います。



ことが出来ました。

しかし、高専に進学して、英語に触れる機会が極端に少なくなりました。授業日数も他の高校に比べて少なく、またその分他の教科の比重が大きいため、自分でやる余裕もありませんでした。英語は単なる教科ではなく言語・ツールなので、日頃から関わっていないければその力はどんどん落ちてしまいます。今回十分な成果を残せなかったのはその所為だと思います。

来年はもっと忙しくなると思いますが、それに負けずに英語の自学を続け、来年はもっと良い結果を残したいと思っています。

たため参加を決意しました。以降、ほぼ毎年スピーチコンテストに参加し、出場回数は4回を数えました。

今年度は「次への一歩」という題目で、スピーチコンテストと同様に1年生の頃から継続している弓道について、現在の私の考えと「多くの人に弓道を教えられるようになりたい」という、今後の目標について話をしました。スピーチの原稿を作成するにあたっては、入賞することよりも私が弓道を通して学んだことや自分の考え等を多くの人に伝えることを優先して考えました。

これまでスピーチコンテストに参加して賞を頂いたことがなかったため、今回準優勝することができ本当に嬉

しく思います。この後に参加した東海北陸地区大会では入賞することはできませんでしたが、他高専の学生のスピーチを聞くことができたと共に、外部のコンテストで自分の力を試すことができ、とても良い経験となりました。

これまでのスピーチコンテストへの参加を通して、英作文や英会話の力を鍛えることはもちろんですが、原文

## その他イベント

### 第2回 高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップ

#### 高専における設計教育の高度化を目指して

機械工学科 小林 隆 志

「高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップ」(副実行委員長柳下校長)が12月12日、13日に開催されました。開催の目的は、日々技術進展している産業界が求める“真に設計のできる技術者”の養成のために、どのように技術者教育を実施すればよいかを検討することです。昨年度に続き第2回目となる今年度は、高専の機械系設計教育におけるCAD導入の進展状況および両技術科学大学との設計教育の連携について情報交換するとともに、企業から見た機械系設計技術者に必要なスキル等について議論が交わされました。

現在、産業界では設計期間の短縮やコスト低減のために、製品をコンピュータ画面上で3次元的に表示させながら設計する3D-CADが多く導入されています。既に多くの高専で3D-CADのソフト面・ハード面での整備を進めていることがわかりました。一方で、設計製図の基礎教育においては従来の製図機(ドラフター)を用いた教育が重要との声も根強くあります。本校でも3D-CADソフトSolidWorksが導入された現在、今回のワークショップで得られた情報を生かして、よりよい設計製図教育の



発射装置

となる日本語を構成する能力や壇上での話し方等、単に英語の授業を受けるだけでは得られないものを身につけることができたと思います。来年度からは大学に3年次編入する予定です。編入先でも英語に関わるイベントがあれば積極的に参加し、高専のスピーチコンテストで学んだことを活かしたいと思います。

方法を早急に確立する必要があります。重要な点は学生が自身の頭で考えるような教育を実践することです。

2日目には、学生の「3次元デジタル設計造形コンテスト」が開催されました。コンテストのテーマは「マグネットダーツ」でした。磁石の付いた矢を的に向けて発射するための発射装置を製作し、競技とプレゼンなどの総合点で順位を競うものです。装置の製作にはラピッドプロトタイピング(Rapid Prototyping)という方法を用います。この方法は、3D-CADを用いて設計した部品データを3次元プリンタという造形装置に送り、溶かした樹脂を少しずつ積層することによって複雑な形状の部品を迅速(Rapid)に試作(Prototyping)するという最新の技術です。最近では多くの企業で、製品の試作段階での製品の検討のために用いられています。

競技には15高専からのエントリーがあり、各チームとも学生らしいアイデアに富んだユニークな発射装置で競技に参加しました。沼津高専からは機械工学科5年生6名(指導教員:永禮教員)がエントリーしました。緊張の中、見事に2本のダーツを的に命中させ、15高専中6位となり、審査員特別賞を受賞しました。

本校でも今後3次元プリンタを導入する計画があります。導入されれば、創造教育に大きな効果を発揮するものと期待されます。今回のワークショップ及びコンテストに参加して、技術の進展に合わせた技術者教育の改善努力を継続する必要があると感じた次第です。

最後に、本ワークショップ開催に際しご協力いただいた関係の皆様へ感謝の意を表します。



M5チーム

(左から西ヶ谷、渡邊、浅田、片山、武村、石和田)

## 3次元設計デジタル造形 コンテストに出場して

機械工学科5年 武村直輝

先日、産学連携ワークショップとあわせて、学生の「3次元設計デジタル造形コンテスト」が開催されました。今年は全国の高専から15チームがエントリーしました。沼津高専は我々機械工学科5年の有志6名からなるチームです。

この「3次元設計デジタル造形コンテスト」は、3次元CADと3次元造型機（プリンター）を用いたコンテストです。3D-CADによりマグネットダーツの矢を発射する装置を設計し、3次元プリンターによって形にします。そして、作製した装置により2.4m先の的をめぐらして矢を放ち、その得点を競います。コンテスト当日は、その競技に加えてプレゼンテーションを行い、その出来も得点に加味されます。

私たちがこのコンテストのために集結したのは出場応募締め切りの直前でした。片山と西ヶ谷は永禮先生の研究室で3D-CADを扱っているということで、他の浅田、渡邊、石和田、武村の4名がアイデアを出し2人に具現化してもらうという形で進めていくことになりました。

コンテストに向けて我々がまず悩んだのが発射機構でした。我々は昨年度に行われた第一回大会に出場していません。そのため、前回大会でどのような発射機構を採用したチームがいい結果を残したのか、どのような形状ならば造形上問題がないか、といった情報は先生の記憶に頼るしかありませんでした。そこで、単純ではありますが板ばねの弾性を利用して発射口から矢を放つという機構で設計していきました。

設計過程で、最も悩まされたのは3Dプリンター特有の

積層方向でした。3Dプリンターは、製品を輪切りにしたようなものを、どんどん積み重ねていくことによって造形します。これにより、力が働く方向によって製品の強度が大きく変わってしまうのです。そのため、力の働く方向と積層方向を考慮し改良を重ねました。その結果、当初8枚の板ばねを用いた装置が弓矢のようなシンプルな形状になりました。

試作品の段階で強度に問題のある部分などを修正し、コンテスト用の造形を行いました。コンテスト用の装置で発射の練習をしているうちに、部品の一部が破損してしまうというアクシデントもありましたが、発射には大きな影響はありませんでした。

大会当日は、私がプレゼンテーションを担当し、西ヶ谷が射手を務めました。プレゼンでは、メンバーの紹介、装置図、製作に至るまでの過程について、スライドを用いて説明しました。競技のダーツの方では、練習時間では思うように矢が飛びませんでした。しかし本番では、的に矢を命中させることができました。この命中のおかげで、我々沼津高専は急遽増設された審査員特別賞を受賞することができました。

このコンテストでは、15チームが出場しましたが、どのチームもとても工夫や努力を重ねてコンテストに臨んでいました。前回大会の改良をしたり、前回優勝したチームの動力を自分たちの装置に取り入れたり、デザインが格好よかったりと、どのチームにも終始感心させられるとともに、とても勉強になりました。また、まったく知らない人たちの前でプレゼンをするということも今までにないことだったので、とてもいい経験になりました。

来年度から、沼津高専も3Dプリンターや5軸マシンングセンタを導入するという話も、工業新聞等で報じられています。是非これらの機器を活用して来年度以降もコンテストに出場し、優勝を目指して欲しいと思います。

## 青少年表彰制度『千本賞』受賞

### 先生は高専のお兄さん

物質工学科3年 上野翔也

この度、我々長泉北中学校への学習支援グループはその活動が認められ、千本賞を受賞しました。千本賞とは、沼津千本ライオンズクラブと沼津千本ライオネスクラブが行っている表彰制度で、青少年が他の青少年の模範となるような活動や行為を表彰し、将来を担う青少年の健全で豊かな成長と、青少年健全育成に対する社会意識高揚に資することを目的とする表彰制度のことを言います。

我々長泉北中学校への学習支援グループのメンバーは沼津高専の学生有志によって成り立ち、同中学校の放課後学習を支援してきました。放課後学習は学校の勉強についていけない、勉強したいのだけれども難しくとて

も自分ひとりでは解決できなくて困っている中学生を対象に、自習を基本として数学・英語・国語の3クラスを開設し、勉強を指導するというシステムです。この活動は広く評価され「先生は高専のお兄さん」という見出しで平成21年5月30日朝刊の3面に我々の活動が掲載され、さらに12月6日には前述の千本賞を受賞しました。

歳の近い年長の者が年少の者に勉強を教えるという仕組みは「マテカ」として寮内に出来上がっており、本年これが寮の外へ飛び出して活動を行ったという見方も出来ます。

マテカにしろ、放課後学習の支援にしろ、勉強でわからないところを気軽に尋ねる事ができる、さらに少人数であるからマンツーマンに近い形で指導できるという普段の学校の授業には無い利点を持ちます。これは受講生にとって心強いと思いますし、何より自分が過去に学習した事を年少の者に解かりやすく教えるという事はそれなりに技術を要する事ですから、我々の勉強にもなりま

す。さらに我々先生・受講生共々強制ではなく有志で行っていますから、やる気は十分に積極的に良い放課後学習にしようという意識を持っています。このような事からこの長泉北中学校への学習支援は我々にも受講生にも大変意義のあるものであったと思います。

実際、放課後学習の支援を行ってみると、やはり受講生のやる気は素晴らしいものでした。遅刻する者もおらず、開始と同時に黙々と数学の基礎問題集に取り組む。問題集が終わったら赤ペンで丸付けをして自分の理解度確かめる。最初の頃は緊張していたせいか、受講生から我々に質問に来る事があまりなく、中学校の先生が「せっかく高専の人が来ているんだから」と諭してあげなければ質問する事はありませんでした。そのため、我々も適宜巡回して躓いているようだったら教えるというスタイル

をとっていましたが、回数を重ねるうちに受講生の方から質問に来るようになりました。この時、私は放課後学習の良さを実感しました。1週間後また来て見ると、受講生は、私が教えた内容は既にクリアしていて次のステップに進んでいました。「やればできるじゃん」と声を掛けるときに私に向けた受講生の笑顔は今でも忘れられません。

勉強を教えることで、教える側は学んだことや経験を他の者に説明する技術を身につけ、教えられる側は勉強を理解し、勉強が分かることに対して喜びを感じられるようになる。このような機会が今後もまた増えていけば、意欲を持って学習してくれる人が増えてくれると信じています。

## 退職教職員から



### 定年退職のご挨拶

教養科  
野澤 正信

沼津高専で足掛け30年、哲学を教えてきました。哲学について小文を書き留めて、退職のご挨拶にいたします。

「哲学」の語源にもとづく意味は、愛知、知の探求です。それで、哲学を教える目標は、社会や自然のさまざまなことに関心をもち探求する学生を育てることになります。卒業後、学校で習った知識・技術を利用して活躍する限りでは、喻えるならグライダーで、動力をもたずに飛んでいる状態です。自力で飛ぶには新しい知を生み出す動力が必要で、それが探求心です。ソクラテスの「無知の知」の教えは、今の自分の知に満足せず、さらなる知を求めることを説きます。この姿勢をもつことが哲学の基礎になります。

これは絶えず疑うという意味では懐疑主義です。たとえば、いま世の中は地球温暖化説一色ですが、これも疑ってみる余地はあります。否定する説がある時、その内容を検討もせず誤りと決めつけてはいけないと注意するのが哲学の役目です。何かを絶対的に正しいと盲信することは大きな力を生みますが、騎虎の勢いに乗って破滅に至る原因にもなります。歩みがのろくなるとしても冷静着実に問題を考えて、未来を開いていくのが哲学の役割です。

カントの「哲学は教えられない」という有名なことばがありますが、その心は、技術は教えられるが、探求は活動だから教えられないということです。歴史に名を残した思想家は、知の探求について独自の方法論をもって

います。方法論を編み出したから歴史に名を留めたのです。ソクラテスの方法は対話です。短い問いと答の積み重ねによって、いま自分もつ知の不完全さ、つまり探求すべき問題がどこにあるかを明らかにする方法です。プラトンの方法は、理想状態における思考実験の方法です。現実の問題のさまざまな要素の中から重要な要素を取り出して理想化して考えることで問題の本質を理解する方法です。このように思想家毎に各自の方法論があります。興味のある思想家がどんな方法論を用いているか調べてみてください。

知の探求の基本姿勢を懐疑主義といいましたが、思想を学ぶとき、最初から疑わしいものとして接すると、ヘーゲルが『哲学史講義』でいうように思想史は“馬鹿の陳列台”になって、わざわざ学ぶ必要は感じられなくなります。それで、すべてを疑うのではなく、裏返し“肯定的な懐疑主義”に立って、どの思想も丸ごととは信じないが、一分の真理はあると考えて理解に努めるのです。この考え方のよりどころは、ポパーの仮説主義です。永遠不変の法則などなく、どんな理論も改訂の可能性があって、反証されない間だけ有効な仮説だとする考えです。科学と非科学の境界がなくなりますが、テストに耐えるかどうかによって採否を決めます。それでも、決められないものがたくさんあります。たとえば、「イエティは実在する」という説は、地球の内外全地点の一瞬での検査は不可能なので永遠にテスト不能です。信じる人はヒマラヤへ捜しに出かけます。それもよしとするのです。見つかれば、シーラカンスのように科学のリストに加えます。この視点から見ると、どんな奇妙に思える考えも、みな一理あります。

最後に、哲学には時代の流れを俯瞰して未来を切り開く役割もあります。現在の日本は裁判員制度が導入され官僚依存の行政が見直されて、専門家を尊重するプラト

的なエリート主義から、多数決原理による民主主義に移行しつつあります。プラトンの書には「息子さんに馬術を習わせるとき、誰にゆだねます？八百屋さん？大工さんですか？なぜ政治や裁判だと彼らに聞くのでしょうか？」という民主制批判がよく出てきます。今、国はま

さにプラトンが「憂慮」する方向に向かっているのですが、これを「杞憂」に終わらせるにはどうすればよいか、それが現代の課題です。さあ、ここから先はご自分で哲学なさってください。



## 定年を迎えて

栄 養 士  
土 屋 つね子

今年3月で退職となります。15歳から20歳の寮生、一生で一番元気な若者達に囲まれて仕事をしていましたと、定年になることが不思議に思います。これまで、無事に仕事できましたのも、校長先生はじめ、教職員・保護者の皆様方のご指導やご協力があったからだ大変感謝しております。また、寮生特に役員達にはいろいろお願いすることが多く、そのたび気持ち良く協力をしていただき助けてもらいました。寮生の皆さん、ありがとうございました。

私は、昭和46年に栄養士として、寮務係に勤務しました。今の学生の生まれる一回りも前に勤めたこととなります。現在では一日30品目以上を取り入れたメニューで設備もよくなり、食器も個別皿にして適温を心がけ、少しでも美味しく食べてもらえるよう工夫をしています。けれども、当時は、調理器具も少なく、食材やメニューも限られていましたので、トンカツ・織キャベツ・ポテトサラダ・みそ汁・ご飯は、当時の寮生にはごちそうでしたし、喜ばれたメニューの一つでした。食器も三つに分かれた仕切り皿とご飯丼と汁椀で、調理された料理も寮生が喫食するときは、冷めてしまっていました。それでも、ご飯は茶碗にてんこ盛りによそっていただけだったので、穀物エネルギー比率は今より高かったと思います。低栄養の時代が過ぎ飽食の時代となり、現在は、過栄養と言われ、生活習慣病の問題も起き、食の変化は目覚しいも

のがあると思います。

随分前になりますが、寮生と会話をしている中で、「僕たち、毎日寮と学校の行き来だけで、なんの変化もないですよ、唯一、寮食だけが楽しみで。」と、言われたことがありました。この言葉はずっと忘れることはありません。今も、毎週金曜日に提示する献立表を待っている学生も多くいますので、食事を楽しみにしてくれることは、今も昔も変わりません。

いつも、私が願っていることは、寮生は一年の3分の2は寮で生活することになりますので、全寮生が元気で毎日を過ごしてほしいということです。毎年、年度の初めに、1年生対象の教養講座として、私が「正しい食生活」と題して、食事の大切さについて話をさせてもらっています。その際、私が必ず話すことは、「人は、食べることで生命が維持されていること。そして、単品ですべての栄養が摂れる食品はないこと。いろいろな食品を食べその相互作用により消化吸収をしてくれること。そのためには、バランスの良い食事を摂ることが大切になるんだよ」という話をします。しかし、疲れても一晩寝れば元気になる若者達ですので、なかなか理解してもらえないようです。

食事に対して、いろいろ問題を抱えている寮生も多くなりましたが、やはり好き嫌なく食べる者は、毎日元気に過ごしています。また、体調を崩しても回復が早いように思います。入寮前に、お母さんから洗濯機の使い方を教わってきたと不安を抱えて入寮してきた1年生も、共同生活を通じて学ぶことがたくさんあるのです。そして、先生や先輩達から指導を受けて成長していく寮生を見ていることが私は大変楽しみでした。

最後に沼津高専の益々のご発展と、皆様のご健康をお祈り申し上げます。



## 工業化学科より 物質工学科へ

技 術 室  
雨 宮 博

企業に2年間勤めた後、沼津高専に採用されました。確か一期の工業化学科の学生が5年生だったように記憶しています。学生実験などは装置が未完成で、物質工学科4年生が行う化学工学実験では、管内の圧力損失に使う5m程の塩ビ管に圧力計を取り付け、アングルに固定

し、固体の熱伝導率に用いる熱電対アンメル・クロメルについては、バーナーの炎で手作りしました。

最初は工業化学科でスタートしたのですが、平成4年から物質工学科に改組されました。4学年より生物系と材料系に分かれます。学生にとって選択の幅が広がることは良いことだと思いました。女子学生はコツコツと細かい作業が得意なので生物系が向いているかもしれません。

最近、技術職員を含め事務職員、教員共に昔に比べ出前授業、公開講座等大変忙しくなってきました。私については平成21年12月現在、月・火曜日は生物工学実験2、水曜日は1年生の物質工学入門、木・金曜日は物理

化学実験をやらせてもらっています。

最後に学生の就職についてですが、現在、企業はリーマンショック等の影響で100年に1度と言われる不況にあえいでいます。日本の大黒柱的存在だったトヨタ自動車

でも赤字に転落するありさまです。沼津高専生には勉強、スポーツに励み、人柄の良い社会に役立つ技術者になっていただきたいと思います。長い間ご支援いただき誠にありがとうございました。

## 卒業生・修了生から

### 沼津高専で学んだ事

制御情報工学科5年 栗田圭祐

成人式を迎え、5年間という高専生活も残りわずかとなり、今振り返ってみると、あっという間に過ぎてしまったように感じます。学年が上がるにつれて月日が経つのが早く感じるよという先輩の言葉が、当時はわからなかったものの、今では自分も同じ立場になりその通りだと思うようになりました。とはいえ、その一年毎に充実した時を過ごしてきたと思っています。

寮生活は、自分の生活スタイルを見直すためのいいきっかけでした。朝起きて点呼を受けて一日がスタートし、決められた消灯時刻になるまで、時間や規則といった社会に出て守っていかなければならないことを改めて学びました。帰省前の大掃除にはうんざりするほど苦勞したことも、日頃から身の回りをきれいにしておこうという教訓になった気がします。なにより親元を離れて、友人や先輩と共に生活することで勉強に限らず大切なことを多く学びました。意見の食い違いから喧嘩をすることもあったけれど、本音でぶつかり合って認め合うことができた友人とはそれまでよりいっそう気の置けない仲間となりました。

日々の授業や演習、体育祭や高専祭、スキー研修や工場見学と、思い出を一つ一つあげていけばきりがなけれど、自分にとってもっとも強く印象に残っているのはプログラミングコンテストです。S4創造設計の授業から始まった手袋型生活支援インターフェイス-TEE-の開発は、プログラミングコンテストに出場するまで1年半にも及びました。何か一つのものを作るのに、これほどの時間と情熱を捧げた経験は私には他に思い当たりま

せん。

S科でこれまでに勉強してきた知識や技術を総動員してなお、創造設計の授業ははじめて挑戦する壁と苦難の連続でした。先生方に何度もダメだしをされながら製品を企画し、仲間と共に実現に向けて議論と調査を繰り返しました。ハードウェアの設計においても、通信やGUI等のソフトウェアにおいてもはじめての体験の連続で、また人間の手の動きを認識するというテーマが理論に基づいて計算通りに動かない誤差の要因となり、一歩進む毎に設計を見直し、仕様を変更していきました。それでも必死になって困難を乗り越えることができたのは、自分たちが考えて作ったものが動いたときの感動があるからこそだと思います。自分の中で「今日はこの問題を解決する。」「今日はこの機能を実装する。」というように小さな目標をいくつも立てて、これを達成するまで、時には夜遅くまで学校に残り、時には明け方までメンバーと電話やチャットで議論しながら、開発を進めました。

作っている間は自分の作業に夢中だったけれど、終わってみて改めて、自分一人だけの力ではとてもこの成果を上げることはできなかったと感じました。個性溢れる仲間全員が、自分の長所を最大限生かせるような役割分担がなされ、その力がパズルのように組み合わせられて一つとなり、全国高専プロコン優秀賞という結果を生み出しました。

このような経験を通して5年間の間に学んだ知識、技術、考え方、そして得た友人は、今後の私の人生にとって大きな財産になると思います。自分のやりたいことがあって、それができる環境と支えてくれる周りの人がいる、とても恵まれた状況にいたことに今更ながらに気づかされました。これまで自分を支えてくれた家族、友人、先生方に心から感謝したいと思います。

### 「人柄のよい 優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」

物質工学科5年 大橋史弥

私がこの沼津高専に入学してから早5年。時間はあっという間に過ぎ去ってしまうものです。少年から青年へと成長する大切な時期を、沼津高専で過ごせたことは本当によかったと思います。すばらしい先生方にご指導い

ただき、よき友人に恵まれ、寮生活という貴重な体験ができたことなど、すべての出来事が私を大きく成長させてくれました。

私は、明確な目的を持って入学したわけではなかったため、卒業後の将来について具体的に考えず、なんとなく授業を受ける日々が続いていました。そんな私に、将来を具体的に考えるきっかけを与えてくれたのは、3年生での生物化学の授業でした。普段から何気なく口にしている食材には様々なアミノ酸が含まれており、その一

一つ一つに役割があることを知ったとき、初めて自発的に勉強に取り組むようになりました。一見つまらなそうなことでも、少し視点を変えるだけで自分の興味が変わり、新たな知識や経験を得られるということに気がつきました。それからは、卒業後の進路について真剣に考え、就職して社会に出るべきか、大学に編入学して、さらに進んだ勉強をするべきか悩むようにもなりました。最終的には、「今の自分でどこまで通用するのか、社会に出て確かめたい。もし挫折してもまた這い上がればいい」と考え、就職という道を選びました。

4年間の寮生活も私を大きく変えました。私は、浜松市出身であることもあり、入学時に誰一人として友達がいませんでした。中学を卒業してすぐに親元を離れることは、私に大きな不安を抱かせました。しかし、寮生活はそんな不安を一気に忘れさせてくれるくらい有意義なものでした。他の学科、別の棟の人、先輩、後輩と多くの友人を作ることができました。しかし、そんな寮生活の中で一度だけホームシックにかかったことがあります。それは、1年生のころ、母から手紙をもらったときでした。もう手紙の内容は覚えていないのですが、両親や家族の温かみが恋しくなったことを覚えています。今では、両親に対する感謝の気持ちを忘れないためのよい経験になったと思います。また、3年間の寮生活会員の活動を通して、様々な人とのコミュニケーションのとり方や、

大勢の前で話す能力、人をまとめることの難しさ、先輩に対する礼儀など多くのことを学びました。そのことが、社会に出て働けるという自信につながったのだと思います。

5年生での卒業研究では、社会に出てから必要なことを学んだ気がします。技術者としての心構え、数ある問題と向き合い、それを自ら考え、解決していくことの難しさと大切さ、それまで学んできたことのすべてが1年間の卒業研究に詰まっていた気がします。学生実験とはまったく違う、すべて自分で考えて問題を解決する研究というものの難しさを大いに感じることができました。就職した後、卒業研究に真剣に取り組んでよかったと思う日がいつか来ると思います。

5年間を振り返るには、まだまだ紙面が必要なくらい多くのことを経験しました。私は本当に、周りの人や、環境に恵まれたのだと思います。入学当初は何も考えていなかった私ですが、今は高専で学べて本当によかったと思います。沼津高専で多くの人々に出会ったことは私の大きな宝物となるでしょう。

最後になりましたが、人柄のよい技術者とは、他人や自然に優しく、常に問題解決にむかって真剣に取り組む人間だと考えるに至りました。そんな技術者になって世の期待に応えたいと思います。

## さらなる高みを目指して

制御・情報システム工学専攻2年

遠山 勇 樹

専攻科という特殊な環境においては、①自分をマネジメントして自発的に行動する力、②物事を正確に捉え本質を見抜く力、③状況に応じて後輩を指導し、組織(研究室)全体としてパフォーマンスを発揮することを可能とする統率力、が学生に強く要求されます。これらは、今後技術者もしくは研究者として活躍するためには標準的に求められる力だと思われませんが、初めからこれらの能力を具備していることは非常に難しいです。だからこそ、大切となるのは、研究主体となる本科5年次からの積み重ねであり、限りある時間の中で自分にどれくらい投資できるかであると考えます。

高専では、5年次になると研究室に配属されますが、それから自分の将来を決定する勝負の始まりであると私は思います。本科の4年次までは、閉鎖的な環境(クラス)の中で比較され、その中での成績の良し悪しだけが自分の能力の指標となっていました。それは全く意味がありません。それは、これまでの“勉強”自体が必要でないということではありませんが、本当に重要なのは、“どれだけ深く考える癖をつけてきたか”であると思

います。私も5年次に研究室へ配属され、専攻科を含めて3年間の継続的な研究をしてきた訳ですが、当初は自分の物事の進め方、考え方が全く通用せず、非常に苦しかったです。

いわゆる本科4年次までの勉強というのは、自分たちにとって新しい学問知識を先生方が効率的に教授していただき、既に確立された学問を自分の中で受け入れることから始まります。そして、学校の定期試験では、その受け入れた内容を“きれい”に答案用紙に書けば、それが正解とみなされるのです。しかし、本当に大切なのは、きれいな答案用紙を作るのではなく、自分の中に一度受け入れた内容をイメージもしくは自分の考えとして再構築するという事です。これが理解するという事であり、この再構築がなければ“単体の”知識として自分の引き出しに取められることとなります。そうしないためにも、あらゆる事柄に対して、素直に受け入れる部分と疑ってかかる部分を併せ持つことが重要なのです。こうした過程を経ることで自発的に邁進していき、貪欲に“なぜ”を突き止めることが、未熟ながらも研究者として研究を遂行するための前提であると思います。

先ほど、“自分の将来を決定する勝負”と述べましたが、それは研究を遂行していく中で、自分を大きく成長させる体験を積むことができるためです。私の場合、専攻科において自分を成長させてくれた要素は様々ですが、その中の一つに後輩の存在があります。専攻科になると研

究2年目ということもあり、ようやく研究の進め方に関するイメージが分かり始めるころです。しかしながら、研究のことについて何も知らない後輩に指導するのは別問題で、自分では理解しているものをどの様に伝えればいいのか、どういう布石を打っておくべきかなど、最初は非常に苦労しました。しかし、自分のことに加えて後輩のマネジメントもする中で、相手に分かりやすく説明する力、さらには多くの事柄を同時に考える力を研鑽することができたと思っています。専攻科2年生は大学4年生と同年齢ですが、研究年数は大学院修士2年生と同じとなります。学力や工学知識に関しては、大学院修士

## 玉は玉によって磨かれる 人は人によって磨かれる

応用物質工学専攻2年 蔭山夏美

私は、専攻科生活の大部分を研究室で過ごし、研究を通して学んだことは私の「財産」となりました。私が研究を思う存分出来たのは、古川先生や両親、そして研究室の仲間を始めとする多くの人に支えられ、協力して頂いたからです。本当に言葉では表しきれないくらいの感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、茶樹の形質転換をテーマに研究を行ってきました。生物の研究は、とにかく「根性」と「根気」が必要でした。何百もの小さな不定胚という培養物を培地で育て、不定胚を一つ一つすり潰して遺伝子を検出する。長い時には、12時間くらいひたすら培養していることもありました。

時には、何度やっても実験が上手くいかず、研究の目的を見失ったり、混乱したりすることもありました。私が混乱しているとき、古川先生はどんなに時間がかかっても、丁寧に理解するまで指導してくださいました。先生は、疑問に対して答えをそのまま与えるのではなく、ヒントとなる本や論文を紹介し、私自身に考え、行動させてくださいました。そして、行動するにあたって計画や意見をじっくりと聞いてくださいました。「考えさせ行動させる」という指導は生徒を信じていないとできないと思います。

私の心に残っている言葉の中に「一オンスの行動は一トンの理論に値す」という言葉があります。実験技術や知識を蓄えることは、研究をするにあたって欠かせないことです。しかし、蓄えるだけでは限界があります。蓄えた実験技術や知識をどう使うのか、どう組み立てるの

2年には敵いませんが、研究に対する姿勢やポリシー、行動力は負けてはいけないと思います。ですから、研究室全体を見据え、自分がその一員として何ができるのかを考えて行動する。これが専攻科で養うことのできる重要な能力であると確信しています。

これらの考え方や姿勢は、3年間の研究活動を通じて得たかけがえのない財産です。20代の前半にこのような濃密な日々を過ごせたことに感謝しています。私は、まだまだ未熟ですが、さらなる高みを目指して今後も継続的に自己研鑽を図っていきたいと思います。

かを考え、実践することが大切であると実感しました。

私は、研究中に多くの「考え行動する」ことを経験しました。「考える力」そして「行動する力」は、研究だけでなく就職活動や普段の生活の中でも役に立ちます。とにかく目の前にある物事に精一杯取り組むと、何かが見えてくる。一生懸命取り組んだことに、無駄は一つもないと感じています。

また、私は要領が良いとはいえ、さらにうっかり屋なので、実験において考えられるミスというミスは、ほぼ全て経験しました。私の研究では、遺伝子を扱っているため試薬の単価が非常に高く、ミスは大打撃です。しかし、ミスをしたおかげでどんなミスが起きても対処し、他の人にもアドバイスができるようになりました。ミスと対処はセットです。ミスした後に何も学ばないとマイナスがさらにマイナスになります。ミスしてしまったら出来る限りプラスに近づけるよう行動することが大切であると、研究室に打撃を与えながらも学ばせてもらいました。

これまでに古川先生は、私に多くの「きっかけ」や「学ぶ機会」を与えてくださいました。夏休みには、遺伝学研究所で実験技術を学ぶことができ、学会では他大学や研究所の方々からアドバイスを頂くことが出来ました。専攻科研究を通して多くの人と出会い、そしてその出会い一つ一つが私を前進させてくれました。こんなにも、多くの人からアドバイスを頂け、そして自分のことに時間が使えるのは学生の特権であると感じています。

最後に、研究室の仲間が居たからこそ、毎日研究室が楽しかった！研究が大変でも友達が居るから頑張れた！これからどんなことがあっても、「私には高専で出会えた大切な仲間がいる」ことを支えに前向きに進んでいくことができると思います。

## 学生の研究活動 (2009. 5. 1 ~ 2010. 4. 30)

### 機械工学科 論文発表 (機械工学科及び機械・電気システム工学専攻の機械コース含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
ME 2	○Takashi KOBAYASHI Kiichi MASUI Wong Teck Soon	ASME PVP 2009 Conference, PVP2009-77633, CD-ROM	The Relationship Between Sealing Behavior of Gaskets and the Leak Tightness of Gasketed Flanged Connections	小林隆志
ME 1	川口瑞樹 ○西田友久 武藤睦治 佐藤公彦	日本機械学会論文集A編, 第75巻 第756号, 2009, pp.981-986.	真空中におけるアルミニウム合金 (Al2024-T4) のフレットング疲労特性	西田友久

### 機械工学科 講演発表 (機械工学科及び機械・電気システム工学専攻の機械コース含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
ME 2	金子亮太	第47回燃焼シンポジウム	MgB <sub>2</sub> の燃焼合成における混合比および初期温度の影響 (牧野 敦、新富雅仁)	札幌幌 コンベンション センター	2009.12.3	新富雅仁
ME 2	増井貴一	日本機械学会	フランジ継手の密封性能に与えるガスケット特性の影響	山梨大学 工学部	2009.10.24	小林隆志
M 5	浅田雅也	日本機械学会東海学生会 第41回学生員卒業研究発表講演会	多孔質セラミックスの破壊強度に及ぼす寸法効果と負荷速度の影響	名城大学天白 キャンパス	2010.3.8	松田伸也
M 5	渡邊良介	日本機械学会東海学生会 第41回学生員卒業研究発表講演会	ガラスの2段変動荷重下における確率論的破壊強度挙動	名城大学 天白キャンパス	2010.3.8	松田伸也
M 5	河合勇真	日本機械学会東海学生会 第41回学生員卒業研究発表講演会	展示用小型クレーンの設計製作および荷振れ制御手法の検討	名城大学 天白キャンパス	2010.3.8	三谷祐一郎
M 5	佐野裕樹	日本機械学会東海学生会 第41回学生員卒業研究発表講演会	加工工程を最小限に抑えた小型磁気浮上装置の開発	名城大学 天白キャンパス	2010.3.8	三谷祐一郎
M 5	伏見翔馬	日本機械学会東海学生会 第41回学生員卒業研究発表講演会	オートチューニング機能を備えたDCモータ制御装置の動特性改善の検討	名城大学 天白キャンパス	2010.3.8	三谷祐一郎
ME 2	大畑成見	日本機械学会東海学生会 第41回学生員卒業研究発表講演会	支配的な周波数成分を持つ騒音に対するアクティブ制御	名城大学 天白キャンパス	2010.3.8	三谷祐一郎
M 5	柴本将志	日本機械学会東海学生会 第41回学生員卒業研究発表講演会	2点吊り振子と小振子の連成運動の実験と運動解析 (宮内太積、岩本 大、舟田敏雄)	名城大学 天白キャンパス	2010.3.8	舟田敏雄 宮内太積
ME 1	川口瑞樹	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	真空中におけるフレットング疲労挙動のその場観察	ふじさんめっせ (富士産業 交流展示場)	2009.12.16	西田友久

### 電気電子工学科 論文発表 (機械電気システム工学専攻の電気コース含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
ME 1	○岩崎憲嗣 高野明夫	平成21年電気学会産業応用部門大会 ヤングエンジニアポスターコンペティション講演論文集, p13	磁束制御形インバータにおけるベクトル周波数変調法と従来形PWMとの比較	高野明夫
ME 1	○岩崎憲嗣 高野明夫	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.37-40.	Adaptive Speed Control of a Two-Phase Synchronous Reluctance Motor	高野明夫

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
ME1	○高橋儀男 濱屋進也 鈴木達也	情報処理教育研究発表会論文集第29号 pp.27-29.	電磁界と電子の相互作用のシミュレーション(2) —進行波管の増幅動作—	高橋儀男
ME1	○高橋儀男 濱屋進也 鈴木達也	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.41-44.	電界と電子の相互作用のシミュレーション —進行波管の増幅作用—	高橋儀男

### 電気電子工学科 講演発表 (機械電気システム工学専攻の電気コース含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
E5	内海真哉	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	ミニ推進コイルを用いた変圧器の特性	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	江間 敏
E5	佐藤 峻	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	ミニ推進コイルを用いた変圧器の特性	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	江間 敏
E5	奥埜竜一	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	EMTPを用いた電力システムの周波数特性	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	江間 敏
E5	勝又 陸	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	磁気浮上式鉄道、二層配置推進コイルのサージ解析	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	江間 敏
E5	千葉雅浩	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	磁気浮上式鉄道、二層配置推進コイルのサージ解析	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	江間 敏
E5	森田裕貴	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	光ファイバを用いた流量計測技術の開発 (福田光男)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	佐藤憲史
E5	海野雄史	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	DAコンバーターの基礎特性 (植松彰一、荘田隆博)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	望月孔二
E5	森 貴宏	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	複数のカラーフィルタを用いた測色計の検討	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	高矢昌紀
E5	上原諒大	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	GeをドーブしたSiO <sub>2</sub> ガラス薄膜の可視発光	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	野毛 悟
E5	杉山芳臣	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	SnをドーブしたSiO <sub>2</sub> ガラス薄膜の可視発光	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	野毛 悟
E5	井村亮太	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	積層型薄膜共振器のためのZnO薄膜形成法 (優秀賞)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	野毛 悟
E5	田代起也	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	簡易圧電測定用計装アンプの設計と試作	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	野毛 悟
E5	鈴木 慶	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	薄膜分極用治具の設計と試作 (望月翔太)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	野毛 悟
E5	川合真大	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	マンガン酸化物による温度抑制効果の研究 (河合隆徳)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	大澤友克
E5	溝口真澄	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	インターンシップ情報閲覧システムの構築	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	眞鍋保彦
E5	室伏裕太	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	卒業研究時間管理システムの構築	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	眞鍋保彦
E5	伊藤成徳	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	3Dカメラを用いた距離検出アプリケーションの開発	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	高矢昌紀

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指 導 教 員
E 5	大野 哲平	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	画像認識による楽譜の演奏システムの検討 (優秀賞)	ふじさんめっせ (富士産業 交流展示場)	2009.12.16	高矢昌紀
E 5	中村 円亮	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	GPGPUを用いた画像処理ライブラリ開発のための基礎特性の評価	ふじさんめっせ (富士産業 交流展示場)	2009.12.16	高矢昌紀
DS 2	田中 浩太	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	触媒燃焼式センサを用いたVOC簡易測定器における出力特性のシミュレーション (植松彰一、荘田隆博)	ふじさんめっせ (富士産業 交流展示場)	2009.12.16	望月孔二
ME 1	岩崎 憲嗣	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	ベクトル周波数変調法および従来形PWMによる磁束制御形インバータの駆動	ふじさんめっせ (富士産業 交流展示場)	2009.12.16	高野明夫
ME 2	望月 翔太	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	機能性ガラス薄膜の諸特性 (優秀賞)	ふじさんめっせ (富士産業 交流展示場)	2009.12.16	野毛 悟
ME 2	新井 雅哉	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	電気主任技術者試験学習支援システムの構築	ふじさんめっせ (富士産業 交流展示場)	2009.12.16	眞鍋保彦
ME 1	境田 裕	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	情報学習支援システムに関する研究	ふじさんめっせ (富士産業 交流展示場)	2009.12.16	眞鍋保彦
ME 2	片桐 瑞穂	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	測色的に正確な色再現を目指したデジタルカメラの色再現システム	ふじさんめっせ (富士産業 交流展示場)	2009.12.16	高矢昌紀
ME 1	鈴木 達也	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	磁界と電子の相互作用のシミュレーション—進行波管の動作原理— (濱屋 進)	ふじさんめっせ (富士産業 交流展示場)	2009.12.16	高橋儀男

## 電子制御工学科 論文発表 (制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指 導 教 員
DS 2	○大庭 勝久 鈴木 宏和 杉山 清隆	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.131-136.	温度成層流中における波動現象に関する実験的研究	大庭 勝久
DS 2	○杉山 清隆 大庭 勝久 大高 尚	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.137-142.	温度成層流中に発達する内部重力波の空間構造に関する実験的研究	大庭 勝久
DS 2	○遠山 勇樹 大庭 勝久 小谷 雄一郎	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.143-148.	FPGAによる抵抗線温度計用の周波数補償システムのデジタル化	大庭 勝久
DS 2	○山口 雅士 岡本 成晃 中村 彰吾	精密工学会第14回知能メカトロニクスワークショップ講演会論文集 (2009), pp.34-39.	サッカーロボットの学習システムの検討	澤 洋一郎 川上 誠
D 5	○舟田 敏雄 岩本 大	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.239-244.	揺動Wilberforce振子の強制振動の基礎解析: 球面振子	舟田 敏雄
D 5	○舟田 敏雄 岩本 大	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.257-262.	揺動Atwood機械の計算機力学のためのModel: 物理振子	舟田 敏雄
D 5	○舟田 敏雄 岩本 大 清水 啓介 船津 佑介 石本 拓也 中道 義之 大庭 勝久 大宮 内太 川上 積誠 望月 孔二	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.221-226.	出前授業のための「振子」教材の整備	舟田 敏雄 中道 義之 大庭 勝久 大宮 内太 川上 積誠 望月 孔二
ME 2	○柳 元 健 鄭 萬 溶	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.203-208.	防振台に組み込むチューンドダンパの開発	鄭 萬 溶

学 科	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論 文 題 名	指導教員
DS1	○佐野晃城 鄭萬溶	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号(2010), pp.191-196.	バランス測定機の開発に関する研究	鄭 萬 溶
D5	○伊藤大輔 梅原直也 善養寺薫 島田雷太 江本崇司 長澤正氏	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号(2010), pp.209-214.	膜式白金測温抵抗体を使用したヒートパルス式トマト茎液流センサの評価	長澤正氏

## 電子制御工学科 講演発表(制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名(共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
DS2	山口雅士	精密工学会	サッカーロボットの学習システムの検討(岡本成晃、中村彰吾、川上誠、澤洋一郎)	和歌山大学	2009.9.27	澤 洋一郎 川上 誠
DS2	山口雅士	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	サッカーロボットのPSQ学習システム(岡本成晃、中村彰吾、川上誠、澤洋一郎)	ふじさんめっせ(富士産業交流展示場)	2009.12.16	澤 洋一郎 川上 誠
DS2	漆畑勇太	第15回高専シンポジウムinいわき	同心円状マイクロチャネルの熱伝達特性に関する実験的研究	いわき市文化センター	2010.1.23	大原 順一
DS1	田中理史	第15回高専シンポジウムinいわき	ソーラーパネルを用いたコジェネレーションシステムの実験的研究	いわき市文化センター	2010.1.23	大原 順一
DS2	漆畑勇太	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	同心円状マイクロチャネルの熱伝達に関する実験的研究	ふじさんめっせ(富士産業交流展示場)	2009.12.16	大原 順一
DS1	田中理史	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	ソーラーパネルを用いたコジェネレーションシステムの実験的研究	ふじさんめっせ(富士産業交流展示場)	2009.12.16	大原 順一
DS2	長田 卓	平成21年電気学会 基礎・材料・共通部門大会	水トリー劣化試験における損失電流波形の第3高調波成分と水トリー数の関係(阿部和俊、今井友章、遠山和之)	静岡大学工学部	2009.9.10	遠山和之
DS2	長田 卓	2009 IEEE Conference on Electrical Insulation and Dielectric Phenomena	Dissipation Current Waveforms Monitoring in LDPE Sheet Under Water Tree Deterioration Test (Kazutoshi Abe, Tomoaki Imai, Kazuyuki Tohyama)	Virginia Beach Resort Hotel, Virginia, USA	2009.10.20	遠山和之
DS1	小澤 拓	平成21年電気学会 基礎・材料・共通部門大会	交流高電界下におけるLDPEの誘電特性(遠山和之)	静岡大学工学部	2009.9.10	遠山和之
D5	岩本 大	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	Wilberforce振子の基礎解析(舟田敏雄、清水啓介、船津佑介)	ふじさんめっせ(富士産業交流展示場)	2009.12.16	舟田敏雄
D5	清水啓介	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	揺動Atwood機械の数値simulation(舟田敏雄、岩本 大、船津佑介)	ふじさんめっせ(富士産業交流展示場)	2009.12.16	舟田敏雄
D5	船津佑介	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	ペンデュラムスネーク(舟田敏雄、岩本 大、清水啓介)	ふじさんめっせ(富士産業交流展示場)	2009.12.16	舟田敏雄
D5	岩本 大	第15回高専シンポジウムinいわき	Wilberforce振子の解析(舟田敏雄、清水啓介)	いわき市文化センター	2010.1.23	舟田敏雄
D5	野本拓也	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	Belousov-Zhabotinsky反応系の分岐解析	ふじさんめっせ(富士産業交流展示場)	2009.12.16	江上親宏
D5	長澤祐也	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	インフルエンザワクチンの効果的な配分方法の検討	ふじさんめっせ(富士産業交流展示場)	2009.12.16	江上親宏
D5	濱村 功 勝又綾香	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	沼津高専電子制御工学科における新ロボット競技会の企画と運営(最優秀賞)	ふじさんめっせ(富士産業交流展示場)	2009.12.16	江上親宏
D5	野本拓也	第15回高専シンポジウムinいわき	Belousov-Zhabotinsky反応系の分岐解析	いわき市文化センター	2010.1.23	江上親宏

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
D 5	長澤 祐也	第15回高専シンポジウム inいわき	インフルエンザワクチンの効果的な配分方法の検討	いわき市文化センター	2010. 1. 23	江上 親宏
D 5	勝又 綾香 濱村 功	第15回高専シンポジウム inいわき	沼津高専電子制御工学科における新ロボット競技会の企画と運営	いわき市文化センター	2010. 1. 23	江上 親宏
DS 2	遠山 勇樹	日本機械学会2009年度年次大会	FPGAによる抵抗線温度計用の動的補償システムのデジタル化	岩手大学	2009. 9. 14	大庭 勝久
DS 2	遠山 勇樹	第7回日本流体力学会中部支部講演会	熱流体用の温度・速度同時計測システムのFPGA実装	名古屋大学	2009. 10. 16	大庭 勝久
DS 2	遠山 勇樹	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	高周波域における温度変動計測用の動的補償システムのデジタル化 (優秀賞)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	大庭 勝久
DS 2	遠山 勇樹	日本機械学会東海支部第59期総会講演会	瞬時温度情報に基づく熱線流速計用デジタル補償システムの構築	名城大学 天白キャンパス	2010. 3. 9	大庭 勝久
DS 2	杉山 清隆	日本流体力学会年会2009	強安定成層流中における内部重力波の崩壊と乱流生成	東洋大学 白山キャンパス	2009. 9. 2	大庭 勝久
DS 2	杉山 清隆	第7回日本流体力学会中部支部講演会	成層効果により発達した波動の非線形性が乱流生成に及ぼす影響	名古屋大学	2009. 10. 16	大庭 勝久
DS 2	杉山 清隆	日本機械学会第87期流体工学部門講演会	強安定成層流中における波動モードが乱流生成に及ぼす影響	名古屋工業大学	2009. 11. 7	大庭 勝久
DS 2	杉山 清隆	日本機械学会東海学生会第41回学生員卒業研究発表講演会	成層流中における波動の非線形性が乱流生成機構に及ぼす影響	名城大学 天白キャンパス	2010. 3. 8	大庭 勝久
DS 2	藤田 将喜	第15回高専シンポジウム inいわき	SHマイコンを用いた温度流速計用遅延補償回路の開発	いわき市文化センター	2010. 1. 23	大庭 勝久
DS 2	藤田 将喜	日本機械学会東海支部第59期総会講演会	二線式温度流速計用の遅延補償回路の性能向上	名城大学 天白キャンパス	2010. 3. 9	大庭 勝久
D 5	伊井 雅俊	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	温度流速計における遅延補償回路の性能向上に関する研究	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	大庭 勝久
D 5	伊井 雅俊	日本機械学会東海学生会第41回学生員卒業研究発表講演会	SHマイコンによる温度流速計用遅延補償回路の高性能化	名城大学 天白キャンパス	2010. 3. 8	大庭 勝久
D 5	伊藤 敦	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	FPGAによる熱線流速計用デジタル温度補償システムの開発	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	大庭 勝久
D 5	伊藤 敦	第15回高専シンポジウム inいわき	FPGAによる熱線流速計用の温度補償系のデジタル化	いわき市文化センター	2010. 1. 23	大庭 勝久
D 5	早苗 駿一	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	熱線流速計における校正パラメータに関する検討 (優秀賞)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	大庭 勝久
D 5	早苗 駿一	日本機械学会東海学生会第41回学生員卒業研究発表講演会	熱線流速計における温度補償法に関する研究	名城大学 天白キャンパス	2010. 3. 8	大庭 勝久
D 5	長谷川 輔	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	ケニアロボットコンテスト開催におけるプラットフォームの製作 (優秀賞)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	大庭 勝久
D 5	長谷川 輔	第15回高専シンポジウム inいわき	ケニアロボットコンテスト開催におけるプラットフォームの製作	いわき市文化センター	2010. 1. 23	大庭 勝久
D 5	宮地 将大	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	抵抗線温度計用の動特性検定システムの開発	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	大庭 勝久
D 5	宮地 将大	第15回高専シンポジウム inいわき	抵抗線温度計用の動特性検定システムの開発	いわき市文化センター	2010. 1. 23	大庭 勝久
D 5	塚本 駿	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	ETロボコンにおける組込ソフトウェア開発	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	牛丸 真司
D 5	里見 大和	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	ETロボコンにおける組込ソフトウェア開発	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	牛丸 真司
D 5	渡辺 真	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	ETロボコンにおける組込ソフトウェア開発	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	牛丸 真司

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
D 5	伊藤大輔	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	トマトの茎液の流速センサの開発	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	長澤正氏
ME 2	梅原直也	2010年電子情報通信学会総合大会	流星バースト通信によるサロマ湖-札幌間気象データ伝送	東 北 大 学	2010. 3.16	長澤正氏
DS 2	善養寺 薫	2010年電子情報通信学会総合大会	流星バースト通信路特性の南極と中緯度の比較	東 北 大 学	2010. 3.16	長澤正氏
D 5	窪田直己	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	Wavelet解析を用いた異常診断システムの開発	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	鄭 萬 溶
D 5	井上祥太郎	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	バランス測定機の開発に関する研究	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	鄭 萬 溶
D 5	杉山昂太郎	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	Wavelet解析による話者判別に関する研究	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	鄭 萬 溶
D 5	石井孔明	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	防振台に組み込むTMDの開発	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	鄭 萬 溶
DS 1	佐野晃城	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	バランス測定機の開発に関する研究	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	鄭 萬 溶
ME 2	柳元 健	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	防振台に組み込むTMDの開発	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	鄭 萬 溶
DS 1	佐野晃城	Dynamics & Design Conference 2009 (機械力学・計測制御部門講演会)	バランス測定機の開発に関する研究	北海道大学	2009. 8. 6	鄭 萬 溶
ME 2	柳元 健	Dynamics & Design Conference 2009 (機械力学・計測制御部門講演会)	防振台に組み込むチューンドダンパの最適化	北海道大学	2009. 8. 3	鄭 萬 溶

### 制御情報工学科 論文発表 (制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
DS 2	○平野卓哉 大島 茂	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.263-268.	プラネタリーギヤ型水圧モータの出力トルクに関する理論と実験の比較	大島 茂
DS 2	○Shigeru OSHIMA Takuya HIRANO Shimpei MIYAKAWA Yoshihiro OHBAYASHI	JFPS International Journal of Fluid Power System, 2-2 (2009) 22/27	Development of a Rotary Type Water Hydraulic Pressure Intensifier	大島 茂
DS 2	○宮代佳奈 藤尾三紀夫	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010)	NC加工シミュレーションに基づく高速高精度加工用制御システムの構築 一切削付加と工具たわみへの対応	藤尾三紀夫
DS 2	○藤尾三紀夫 村松稔文 宮代佳奈	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010)	サーボデータ制御に基づく高速高精度加工システムの開発 加工実験による精度検証	藤尾三紀夫

### 制御情報工学科 講演発表 (制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
DS 1	紅林広亮	日本神経回路学会	Effects of disinhibition on contrast-dependent responses of visual neurons. (理化学研究所 田中 繁、宮下真信)	東 北 大 学	2009. 9.25	宮下 真信
DS 1	紅林広亮	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2009	視覚野細胞のコントラスト依存性に関する理論研究 (宮下真信)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	宮下 真信

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
DS1	橋本和紀	電気学会 電磁界理論研究会	Exact solution of a flanged rectangular waveguide (Hirohide Serizawa, Kohei Hongo)	名古屋工業大学	2009. 5. 23	芹澤弘秀
DS1	橋本和紀	電子情報通信学会 アンテナ・伝播研究会	The reflection coefficient of a flanged rectangular waveguide antenna (Hirohide Serizawa, Kohei Hongo)	静岡大学	2009. 10. 8	芹澤弘秀
DS1	橋本和紀	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	フランジ付き方形導波管アンテナの厳密解 (芹澤弘秀)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	芹澤弘秀
DS1	橋本和紀	電子情報通信学会2010年総合大会	フランジ付き方形導波管アンテナの厳密解と解の収束性について (芹澤弘秀、本郷廣平)	東北大学	2010. 3. 16	芹澤弘秀
DS2	宮代佳奈	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2009	NC加工シミュレーションに基づく高速高精度加工用制御システムの構築	福岡国際会議場	2009. 5. 26	藤尾三紀夫
DS2	宮代佳奈	2009年度精密工学会秋季大会	NC加工シミュレーションに基づく高速高精度加工用制御システムの構築 — 工具のたわみ変形補正の検証 — (中村幸平)	神戸大学	2009. 9. 12	藤尾三紀夫
DS2	宮代佳奈	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	NC加工シミュレーションに基づく高速高精度加工用制御システムの構築 — 工具のたわみ変形補正の検証 — (中村幸平)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	藤尾三紀夫
S5	中村幸平	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	NC加工シミュレーションの高精度化に関する研究 (宮代佳奈)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	藤尾三紀夫
DS2	宮代佳奈	第15回高専シンポジウム inいわき	NC加工シミュレーションの高精度化に関する研究 (中村幸平、田中淑晴、内山直樹)	いわき市文化センター	2010. 1. 23	藤尾三紀夫
S5	中村幸平	精密工学会第17回学生会員卒業研究発表講演会	NC加工シミュレーションの高精度化に関する研究 (宮代佳奈)	埼玉大学	2010. 3. 16	藤尾三紀夫

## 物質工学科 論文発表 (応用物質工学専攻含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
CB2	○川崎 佑太 田村 義道 鈴木 幸之 藁科 知之	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号, (2010), pp.309-312.	半導体洗浄液SC-1中の化学種分析	藁科 知之
CB2	川崎 佑太 ○芳野 恭士 竹口 昌彦 蓮實 文彦 長池 美世子 橋口 真也 堀内 愛	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.289-292.	ペーパースラッジの滅菌方法に関する予備的研究	芳野 恭士
CB2	長池 美世子 ○芳野 恭士 竹口 昌彦 蓮實 文彦 川崎 佑太 橋口 真也 堀内 愛	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.289-292.	ペーパースラッジの滅菌方法に関する予備的研究	芳野 恭士
CB2	堀内 愛 ○芳野 恭士 竹口 昌彦 蓮實 文彦 川崎 佑太 長池 美世子 橋口 真也	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号 (2010), pp.289-292.	ペーパースラッジの滅菌方法に関する予備的研究	芳野 恭士

学 科	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論 文 題 名	指導教員
C B 2	○ 蔭山夏美 ○ 芳野恭士 笠井彩菜 篠根宏崇 鷺巣浩己	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号(2010), pp.293-298.	植物による水質浄化に関する予備的研究	芳野恭士
C B 2	○ 笠井彩菜 ○ 芳野恭士 蔭山夏美 篠根宏崇 鷺巣浩己	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号(2010), pp.293-298.	植物による水質浄化に関する予備的研究	芳野恭士
C B 2	○ 篠根宏崇 ○ 芳野恭士 蔭山夏美 笠井彩菜 鷺巣浩己	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号(2010), pp.293-298.	植物による水質浄化に関する予備的研究	芳野恭士
C B 2	○ 鷺巣浩己 ○ 芳野恭士 蔭山夏美 笠井彩菜 篠根宏崇	沼津工業高等専門学校研究報告, 第44号(2010), pp.293-298.	植物による水質浄化に関する予備的研究	芳野恭士

### 物質工学科 講演発表(応用物質工学専攻含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名(共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
C 5	伊藤正太	第12回化学工学会学生発表会(東京大会)	メタンの固定化を目指した水草根圏からのメタン資化細菌の探索(蓮實文彦、竹口昌之)	芝浦工業大学	2010. 3. 6	竹口昌之
C 5	大橋史弥	第12回化学工学会学生発表会(東京大会)	中空糸膜を用いた馬鈴薯デンプン工場の排水処理(真柳正嗣、佐藤正昭、蓮實文彦、竹口昌之)	芝浦工業大学	2010. 3. 6	竹口昌之
C 5	大原哲矢	第12回化学工学会学生発表会(東京大会)	メタン資化細菌を利用した燃料電池型バイオセンサの開発(植松彰一、中野由佳子、石居 真、蓮實文彦、竹口昌之)	芝浦工業大学	2010. 3. 6	竹口昌之
C 5	小松知実	第12回化学工学会学生発表会(東京大会)	呼気ガスに含まれる揮発性有機化合物の測定法の開発(都築伴三、杉本一成、蓮實文彦、竹口昌之)	芝浦工業大学	2010. 3. 6	竹口昌之
C 5	山田浩也	第12回化学工学会学生発表会(東京大会)	二流体ノズルを用いた霧化粒子塗装(池田 正明、蓮實文彦、竹口昌之)	芝浦工業大学	2010. 3. 6	竹口昌之
C B 2	長池美世子	日本高専学会 第15回年会	ヒトの呼気ガスおよび汗分析方法の開発(都築伴三、杉本一成、蓮實文彦、竹口昌之)	豊橋技術科学大学	2009. 8. 28	竹口昌之
C B 1	鈴木一玄	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	水素濃度計を用いた水素生産菌の培養(植松彰一、石居 真、蓮實文彦、竹口昌之)	ふじさんめっせ(富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	竹口昌之
C B 1	勝又慎司	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	門池の水質とその浄化への取り組み(蓮實文彦、竹口昌之)	ふじさんめっせ(富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	竹口昌之
C B 2	長池美世子	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	呼気ガスおよび汗分析方法の開発(都築伴三、杉本一成、蓮實文彦、竹口昌之)	ふじさんめっせ(富士産業交流展示場)	2009. 12. 16	竹口昌之
C B 2	長池美世子	第15回高専シンポジウム inいわき	固相抽出法を利用したヒト汗成分の分析(都築伴三、杉本一成、蓮實文彦、竹口昌之)	いわき市文化センター	2010. 1. 23	竹口昌之
C B 1	鈴木一玄	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	水素生産菌における水素生産能に与えるガス組成の影響(植松彰一、石居 真、蓮實文彦、竹口昌之)	鹿児島大学	2010. 3. 18	竹口昌之
C B 2	蔭山夏美	日本育種学会	チャのカフェイン合成酵素遺伝子抑制のための形質転換法(加藤美知代、山田亜美、柳田 章、常吉俊宏)	北海道大学	2009. 9. 26	古川一実

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指 導 教 員
CB2	蔭山夏美	日本育種学会中部地区談話会	チャのカフェイン合成酵素遺伝子抑制のための形質転換法 (加藤美知代、山田亜美、柳田 章、常吉俊宏) ベストポスター賞 (総合1位)	静岡大学	2009.12.5	古川一実
CB2	蔭山夏美	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	RNAi法による茶樹 (Camellia sinensis) のカフェインレス化の試み (加藤美知代、山田亜美、柳田章、常吉俊宏)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	古川一実
CB2	蔭山夏美	第15回高専シンポジウム inいわき	チャ (茶樹: Camellia sinensis) カフェインレス化を目指した形質転換法の検討 (加藤美知代、山田亜美、柳田 章、常吉俊宏)	いわき市文化センター	2010.1.16	古川一実
CB2	蔭山夏美	日本育種学会	チャ (Camellia sinensis) の形質転換法における選抜法の検討 (白鳥水貴、大野 光、加藤美知代、山田亜美、柳田 章、常吉俊宏)	京都大学	2010.3.26	古川一実
C5	大野 光	日本育種学会中部地区談話会	ボンバードメント法を用いた 'やぶきた' 実生多芽体の形質転換の試み	静岡大学	2009.12.5	古川一実
C5	千賀淳平	日本育種学会中部地区談話会	チャ (Camellia sinensis) とツバキ (C. japonica) の種間雑種におけるDNA多型	静岡大学	2009.12.5	古川一実
C5	根本彩乃	日本育種学会中部地区談話会	高不定胚形成能を有するチャ遺伝資源 'Tingamira normal' (Camellia sinensis) の不定胚及び多芽体からの個体形成	静岡大学	2009.12.5	古川一実
C5	笠井彩菜	第15回高専シンポジウム inいわき	光触媒を用いたトルエン類の直接酸化に関する研究	いわき市文化センター	2010.1.23	押川 達夫
CB2	川崎佑太	日本分析化学会第58年会	白金-8-キノリノール誘導体錯体の光応答特性に関する研究 (藁科知之)	北海道大学	2009.9.26	藁科知之
CB2	川崎佑太	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	白金-8-キノリノール誘導体錯体の光応答特性に関する研究 (藁科知之)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	藁科知之
CB2	川崎佑太	第15回高専シンポジウム inいわき	白金-8-キノリノール誘導体錯体の光応答特性に関する研究 (藁科知之)	いわき市文化センター	2010.1.23	藁科知之
CB1	岸 由紀乃	第63回日本栄養・食糧学会大会	コトラヒムブツ (Salacia reticulata) の抗I型アレルギー作用 (芳野恭士、原 悠樹、金高 隆、古賀邦正)	長崎新聞文化ホール	2009.5.21	芳野恭士
CB1	岸 由紀乃	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	Salacia reticulataのマウスI型アレルギー抑制作用 (後藤はるな、芳野恭士、金高 隆、古賀邦正)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	芳野恭士
CB1	後藤はるな	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	Salacia reticulataのマウス脂質吸収抑制作用 (岸 由紀乃、齋藤圭祐、芳野恭士、金高 隆、古賀邦正)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	芳野恭士
CB1	岸 由紀乃	第15回高専シンポジウム inいわき	コトラヒムブツの抗マウスI型アレルギー作用に関する	いわき市文化センター	2010.1.23	芳野恭士
CB1	後藤はるな	第15回高専シンポジウム inいわき	フィトステロールを添加したコメミソのマウス脂質吸収抑制作用に関する研究	いわき市文化センター	2010.1.23	芳野恭士
C5	前田篤志	第9回消費者フォーラム	レジ袋に含まれる有害金属の定量的分析	静岡県男女参画センターあざれあ	2010.2.22	渡辺敦雄
C5	大貫俊慶	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	金属イオン交換ゼオライトを用いるアルコールおよびメタンからの炭化水素合成 (稲津晃司、大貫俊慶、リーイーファン)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	稲津晃司
C5	リーイーファン	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009	金属イオン交換ゼオライトを用いるアルコールおよびメタンからの炭化水素合成 (稲津晃司、大貫俊慶、リーイーファン)	ふじさんめっせ (富士産業交流展示場)	2009.12.16	稲津晃司

## 平成21年度卒業生・修了生予定者進路先一覧

### 機械工学科

41名

#### 就職先企業

26名

アイシン・エーアイ株式会社	1
エヌ・イー ケムキャット株式会社	1
NTN株式会社	1
KYB株式会社	1
サントリーホールディングス株式会社	1
シチズンセイミツ株式会社	1
新日本石油株式会社	1
新日本石油精製株式会社	1
中部電力株式会社	1
株式会社電業社機械製作所	1
東海旅客鉄道株式会社	1
東京電力株式会社	1
東芝エレベータ株式会社	1
株式会社ニコン	1
日本海洋掘削株式会社	1
日本原子力発電株式会社	1
パナソニック ITS株式会社	1

富士乳業株式会社	1
本田技研工業株式会社	1
株式会社牧野フライス製作所	1
三菱自動車エンジニアリング株式会社	1
三菱重工業株式会社	1
森永製菓株式会社	1
森永乳業株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	1
株式会社吉野工業所	1

#### 進学（編入学）先大学等

15名

東北大学工学部	1
東京農工大学工学部	1
首都大学東京システムデザイン学部	1
金沢大学理工学域	1
静岡大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	2
立命館大学理工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	7

### 電気電子工学科

44名

#### 就職先企業

20名

アステラス東海株式会社	1
エムケーチーズ株式会社	1
株式会社関電工	1
小糸工業株式会社	1
第一三共プロファーマ株式会社	1
ダイキン工業株式会社	1
中外製薬工業株式会社	1
中部電力株式会社	2
東京電力株式会社	1
株式会社東芝	1
日本オーチス・エレベータ株式会社	1
日本海洋掘削株式会社	1
富士乳業株式会社	1
明治製菓株式会社	1
明治乳業株式会社	1
明電システムテクノロジー株式会社	1
株式会社明電舎	1

森永乳業株式会社	1
株式会社リコー	1

#### 進学（編入学）先大学等

24名

東北大学工学部	1
筑波大学理工学群	1
千葉大学工学部	1
東京大学工学部	1
電気通信大学電気通信学部	1
首都大学東京都市教養学部	1
横浜国立大学工学部	2
豊橋技術科学大学工学部	7
岡山大学理学部	1
九州大学経済学部	1
琉球大学工学部	1
神奈川大学工学部	1
立命館大学理工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	4

### 電子制御工学科

40名

#### 就職先企業

12名

ウシオ電機株式会社	1
シチズンセイミツ株式会社	1
ジャパンコンステック株式会社	1
テックインフォメーションシステムズ株式会社	1
東京電力株式会社	1
東芝機械マシナリー株式会社	1

日本空港テクノ株式会社	1
沼津市役所	1
富士乳業株式会社	1
本田技研工業株式会社	1
三井造船株式会社	1
明産株式会社	1

## 進学（編入学）先大学等

28名

秋田大学工学資源学部	1
筑波大学理工学群	1
東京海洋大学海洋工学部	1
長岡技術科学大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	3

名古屋大学工学部	1
九州大学理学部	1
東京工業高等専門学校専攻科	1
沼津工業高等専門学校専攻科	16
進学希望	2

## 制御情報工学科

37名

## 就職先企業

18名

ABB日本ベレー株式会社	1
オムロンテクノカルト株式会社	1
キャノンシステムアンドサポート株式会社	1
株式会社システムソフィア	1
株式会社資生堂	1
新日本製鉄株式会社	1
中部電力株式会社	1
テルモ株式会社	1
東海部品工業株式会社	1
東芝機械株式会社	1
株式会社日本たばこ産業	1
株式会社ニューメディア総研	1
パナソニック ITS株式会社	1
株式会社半導体エネルギー研究所	1
株式会社日立アドバンスシステムズ	1
明電システムテクノロジー株式会社	1
メタウォーター株式会社	1
株式会社リコー	1

## 進学（編入学）先大学等

19名

東北大学工学部	1
山形大学工学部	1
筑波大学情報学群	1
筑波大学理工学群	1
電気通信大学電気通信学部	1
静岡大学情報学部	1
名古屋大学工学部	1
名古屋大学情報文化学部	2
豊橋技術科学大学工学部	4
京都工芸繊維大学工芸科学部	1
大阪大学基礎工学部	1
琉球大学工学部	1
中部大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	1
進学希望	1

## 物質工学科

38名

## 就職先企業

13名

アステラス東海株式会社	2
出光興産株式会社	1
株式会社ヴィクトリー	1
京セラ株式会社	1
中外製薬工業株式会社	1
東燃化学株式会社	1
東洋インキ製造株式会社	1
日星電気株式会社	1
ピアス株式会社	1
富士乳業株式会社	1
株式会社フルーツバスケット	1
三菱商事フードテック株式会社	1

## 進学（編入学）先大学等

25名

北海道大学農学部	1
東京工業大学生命理工学部	3
首都大学東京都市環境学部	1
新潟大学農学部	1
長岡技術科学大学工学部	2
石川県立大学生物資源環境学部	1
名古屋大学工学部	1
名古屋工業大学工学部	2
豊橋技術科学大学工学部	6
広島大学生物生産学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	5
沼津市立看護専門学校	1

## 機械・電気システム工学専攻

10名

## 就職先企業

6名

アステラス東海株式会社	1
株式会社小松製作所	1
セイコーエプソン株式会社	1
東京電力株式会社	1
株式会社ポーラ	1
株式会社メタテクノ	1

## 進学先等

4名

東京工業大学大学院総合理工学研究科	1
豊橋技術科学大学大学院工学研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科	1
	1

**制御・情報システム工学専攻** 15名

就職先企業 10名

株式会社朝日工業社	1
株式会社アマダ	1
ABB日本ベレー株式会社	1
株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー	1
エミック株式会社	1
株式会社KDDIテクニカルエンジニアリングサービス	1
サントリーホールディングス株式会社	1
東海部品工業株式会社	1

日立コンピュータ機器株式会社	1
バックマン・コールター・三島株式会社	1

進学先等 5名

東京大学大学院新領域創成科学研究科	1
東京工業大学大学院総合理工学研究科	1
東京工業大学大学院理工学研究科	1
北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科	1

**応用物質工学専攻** 8名

就職先企業 7名

株式会社タウンズ	1
DIC株式会社	1
東海電子株式会社	1
日本メディカルマテリアル株式会社	1

浜名湖電装株式会社	1
町田食品株式会社	1
三浦工業株式会社	1

進学先等 1名

静岡県立大学大学院生活健康科学研究科	1
--------------------	---

**教育後援会から****卒業に際して**

教育後援会会長 (E5) 海野誓志

卒業生の皆様、御卒業おめでとうございます。そして、先生方及び学校関係者の皆様方の御蔭を持ちまして、無事卒業できることを、父兄を代表して心から感謝いたします。

早いもので若干15歳だった子供達も入学以来、本科生は5年、専攻科生は7年もの歳月が経ち、立派に成人され、とても頼もしく思います。生活面では、親元を離れて2年間の寮生活が自立心と協調性を育て、さらに下級生に勉強を教えることで思いやりのある人間性が育ったと思います。また、学業では1学年からスタートする高専独自の高度な専門知識を習得し、実験後のレポート作成、そしてプレゼンテーションで自己表現力を磨きました。また、寮祭、高専祭、そしてクラブ活動では自主性を育てることができました。バスケットボール、卓球、水泳等のクラブ活動で高専間の全国大会に多く出場し、優勝等の成果を出しました。また、大学、大学院でしか味わえないような企業との共同研究でもたくさんの成果を出しました。これから期待される技術者としての土台がこの沼津高専で出来たのではないかと思います。

世の中は日々変化していて、政治、経済、環境問題等、考えさせられることばかりです。2008年のアメリカを中心としたサブプライムローン問題に端を発した金融危機が起こったことで、日本は製造業を中心に業績悪化から派遣切りが発生し、雇用が悪化しました。現在も日本経

済は、まだ回復に時間がかかりそうです。昨年、10月時点の大卒の内定率は62.5%、大卒理系は68.5%でしたが、高専卒の内定率は94.7%という高い数値でした。これは、企業が高専生を高く評価している証です。本校に至っては、就職を希望する学生の就職内定率は100%となっています。また、有名国立大学へも昨年と同様に合格しました。とても喜ばしいことです。

来年度の国家予算は、税収を上回る国債を発行しないと国民の生活が成り立たないという異例の状況です。非常に厳しい時代に突入したと思っても過言ではないと思います。いつの時代でも、厳しい時代に優れた人が現れています。今、まさに変革の時代に来ているのかもしれませんが、企業でもよくイノベーション(変革)、チェンジという言葉に耳にします。沼津高専生からも今の時代を引っ張っていけるような優れた技術者が現れることを願っています。卒業後も、高専生としての誇りをもって就職先または進学先で頑張ってくださいと思います。

世の中の技術の進歩は目覚ましいものがあります。20数年前の主流のCPUは8ビットでしたが、今のCPUはすごいものです。CPUは、進化を遂げ、高性能を追い求めたことにより消費電力は、どんどん高くなりました。しかし、地球温暖化防止が求められてからは消費電力を抑えたCPUが次々に開発されるようになってきました。常に世の中を見ながら何が本当に必要なのかをこれからの技術者は、考えなければならないと思います。流されないでいろいろチャレンジして欲しいです。何事も極めれば、そこからやるべき事と未来が見えてくるはずですよ。

就職して企業に入り、社会人として一番求められていることは、どんな事だと思いますか。私は、問題解決力

だと思えます。この問題解決力を身につけている人は、どんな問題でも解決して前に進みます。誰でも問題にぶつかります。どんなに大きな問題でも、あきらめずに、時には仲間の協力を得ながら頑張れば、必ず解決できるはずです。頑張っただけで身につけて欲しいです。

## 卒業に際して (未来への希望)

教育後援会副会長 (M5) 大川 幸子

門出を迎えられる学生および保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

また、先生方には学業ならびに生活面、精神面において、一方ならぬご指導ご配慮いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

5年前、親元から離れて自立心を育てて欲しく送り出したものの、入学した当初は、寮生活に慣れるのか、ひとりで生活できるのか、勉強についていけるのか、心配ばかりで、親が子離れをしていないことを思い知らされたもので、ついこの間のような気がします。そんな親の心配をよそに、本人は寮生活を存分に楽しみ、また、5年間一緒だったクラスメイトとは、勉強を教えあったり、スノーボードと一緒に出かけたりと、思春期の大切な時期に友情という絆もしっかり養ったようで、とても眩しく映ります。この先、お互いが助け合えるような友になれたのではないのでしょうか。

一昨年、リーマンショックで揺れ動いた世の中で、今年度の高校生の就職率が68.1%、大学生の就職率が73.1%。そんな中、いつもながら高い就職率を誇る高専の実力の高さには目を見張るものがあります。それは最新の「大学生が選んだ就職先人気企業ランキング」という記事にも現れていて『理系の男子で、一時メーカー離れの傾向にあったが、今年のランキングではメーカーが復活して

最後に、日本経済、暗いことばかりのニュースが目立ちますが、社会で活躍できるのを期待しています。これからも、沼津高専の益々のご発展をご祈念申し上げ、感謝の言葉とさせていただきます。5年間、本当にありがとうございました。

いる。これはこの度の大不況の影響で、学生自身の専攻を生かせる職場でしっかりと「腕」を磨き、好不況に左右されないエンジニアになりたい、という意識のあらわれと推察できる。』とありました。まさに高専の教育理念である『人柄のよい優秀な技術者となって、世の期待にこたえよ』そのものではないのでしょうか。

進学に関しても専攻科をはじめ、国立大学に多くの学生が編入と、やはり高専ならではの大学名が連なる事にも関心させられます。

近年、少子高齢化による地方の過疎化、大不況による雇用情勢の悪化、世界に目を向ければ、各地では紛争が続いており、飢餓や貧困、地球温暖化や自然破壊という脅威に直面しています。この問題は、これから社会に出ていく皆様には少なからず考えなくてはならないことだと思います。

特に環境問題については、社会から信頼される指導力のある実践的技術者を目指す皆様にも、この事は必要不可欠の事となるでしょう。

国が社会がではなく、個人個人が心の片隅に意識して行動することが必要です。私たち親も子どもたち、未来のために、身近なエコやライフスタイルの見直しに積極的に取り組んでいかなくてはならないと思います。

これからも高専で育んできた事や希望を胸に、それぞれの目標に向かって、夢をかたちにして欲しいと思います。

最後に心も身体も一番成長する大切な時期に高専で過ごせたことを誇りに思います。校長先生はじめ、先生方本当にお世話になりました、ありがとうございました。

## 2009年度 沼津高専TOEIC® IPテスト

英語教育ワーキンググループ 舟田 敏雄

2009年10月24日(土)に、本校で3、4年生全員を対象に「沼津高専TOEIC® IPテスト」が実施され、受験者は399名(3年生206名、4年生193名)で、各学年在籍学生数に対する受験率は3年生95.8%、4年生91.9%でした。2008年度の受験者は377名(4年生185名、5年生167名)でしたので、受験率は向上しています。受験者の平均スコアは333点で3年生322点、4年生344点であり、昨年の平均スコア333点で4年生330点、5年生336点と比較すると、4年生の平均スコアが14点もアップし、2008年度の

高専4年生7,149名の平均スコア332点をも超えました。今年度は、高スコア得点者は減りましたが、低スコア得点者が減り平均点が上がったことが特徴です。試験前後のアンケートではTOEIC® IPテストの取組を歓迎する回答や英語力アップを図りたいとの意欲的な声が聞かれました。

この試験は、沼津高専の「1-5年の準学士課程」と「4、5年と専攻科の学士課程」の全体を見越した英語教育の将来ビジョンの検討が進められて来る中で、本校の英語教育推進策の一環として昨年に続き実施されたものです。在学中に日頃の授業や自己学習の成果を試すためにTOEIC® IPテストあるいはTOEIC®公開テストを受験

し、学力アップが加速され、ハイスコアが学生のキャリアアップになり、就職／進学に役立つものとなるよう計画されています。また、工学の専門教育を英語で実施することも将来計画に入っています。

昨年の試験を契機に、柳下校長より校長リーダーシップ経費で日本におけるTOEIC®テストを実施・運営する(財)国際ビジネスコミュニケーション協会賛助会員制度の正会員の入会手続きを行っていただきました。それにより、沼津高専は団体として様々なTOEIC®プログラム(TOEICテスト、TOEIC Bridge、TOEIC SW)を賛助会員価格で実施することができます。受験料の値下げがあり、今回の本校でのTOEIC® IPテスト受験料は「通常価格4,040円(税込)／1人」のところ、「賛助会員価格2,990円(税込)／1人」となります。さらに、ほかのTOEIC®プログラムでも賛助会員価格での実施が可能で、TOEIC®公開テスト受験料は「通常価格5,985円(税込)／1人」のところ、「賛助会員価格4,935円(税込)／1人」となります。

昨年度の沼津高専TOEIC® IPテストを契機に、その後TOEIC®公開テストを受験してスコアアップした学生もいます。そこで、本校でもTOEIC®公開テスト団体一括受験窓口を設け、第148回から第153回のTOEIC®公開テストに対応して来しました。受験者数は第148回11名、第149回17名、第150回(本校の団体受験はなし)、第151回23名、第152回49名、第153回25名となっており、各人で目標を持ちキャリアアップを図って回数と共にTOEICスコアも伸びており、学校での授業とTOEIC®公開テストとが学習成果・学園生活のリズムになりつつあるように見受けられます。これは、就職試験、大学編入学や大学院受験の際の学生の英語力のアピールに役立つものと思われれます。

これらの背景として、H15-H20年の文部科学省の「英語が使える日本人」行動計画では、「国際社会に活躍する人材等に求められる英語力」として「各大学が、仕事で英語が使える人材を育成する」ことが求められて来しました。また、技術者教育の国際化としてJABEEからTOEIC®テストを考慮した英語力達成基準の明確化が求められ、本校の技術者教育プログラムでは本科でのTOEIC®スコア350点以上を専攻科入学学力基準にしています。また、本校の「技能審査の合格に係る単位修得の認定について」によれば、「TOEIC®スコア860点以上は7単位」、(途中は省略)、「470-530点は1単位」が「外部修得単位」として認定されます。

引き続き2010年度には3、4年生に「沼津高専TOEIC® IPテスト」が計画されています。また、低学年(1、2年生)のTOEIC Bridge®から高学年(4、5年生、専攻科生)のTOEIC®テストとTOEIC® SWまで体系的な様々な英語教育の短・中期計画が進んでおります。6月に専攻科入学試験が実施される予定ですが、5年生の半数近くの専攻科受験が見込まれており、そこでのTOEIC® IP

テストで高スコアを取得する合格者が数多く出ることが期待されます。

保護者の皆様におかれましても、校長を先頭に加速推進しつつある本校の英語教育推進策に、ご理解とご支援・ご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

- TOEIC®テストはリスニング(45分間・100問)、リーディング(75分間・100問)、合計2時間で200問に答えるマークシート方式の一斉客観テストです。出題形式は毎回同じで、解答はすべて問題用紙とは別の解答用紙に記入します。テストは英文のみで構成されており、英文和訳・和文英訳といった設問はありません。
- 団体特別受験制度(IP: Institutional Program、以下IPテスト)とは、企業・学校・団体が独自に設定した日時・場所において、実施団体の管理の下で行われます。公開テストとは、TOEIC運営委員会が指定する日時・場所において、TOEIC運営委員会が主催するものです。公開テストとIPテストのテスト結果(スコア)の有効性は同一です。
- TOEIC®テストへのガイドブック「TOEIC® Style Book」が3、4年生に配布されました。また、大島副校長よりIPテスト受験学生への激励のコメントをいただきました。
- TOEIC®テストは、(1)合否ではなく10点から990点までのスコアで評価されます(スコア評価)。(2)TOEIC®テストは、世界約90ヶ国で実施されており、年間約500万人(日本国内では171.8万人:2008年度)が受験しています。グローバルスタンダード、「世界共通の基準」として活用することができます。(3)英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価します。
- TOEIC®テストの採用校は821校(大学449校、短期大学54校、高等専門学校58校、中等教育学校3校、高校235校、中学校22校([http://www.toeic.or.jp/toeic/pdf/data/TOEIC\\_2008.pdf](http://www.toeic.or.jp/toeic/pdf/data/TOEIC_2008.pdf)))です。実社会においては、約1,900の企業で採用されています。企業においては、社員採用時・異動時・海外赴任選抜等で活用されています。
- 「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想の策定について  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm))

#### 戦略構想の達成目標

◎国民全体に求められる英語力→

中学・高校での達成目標を設定。

- ・中学校卒業段階: 挨拶や応対等の平易な会話(同程度の読む・書く・聞く)ができる(卒業者の平均が英検3級程度)。
- ・高等学校卒業段階: 日常の話題に関する通常の会話(同程度の読む・書く・聞く)ができる(高校卒業者の平均が英

検準2級～2級程度。)

◎国際社会に活躍する人材等に求められる英語力→  
各大学が、仕事で英語が使える人材を育成する観点か

ら、達成目標を設定。

また、「大学入試」：大学入試センター試験でのリスニングテストの導入がありました。

## 事務部から

### 2大学と教育研究交流協定を締結

教育及び学術研究上の協力関係を推進することを目的として、平成21年10月21日に静岡大学と教育研究交流に関する協定を締結しました。



興静岡大学長（右）



伊賀東工大学長（左）

また、同年12月1日には、東京工業大学と同様の協定を締結しました。

今後は、両大学と教育・研究の促進や学生及び教員の人事交流などに関して、より一層の連携強化を図っていきます。

## 行事予定表

### 平成22年

- 4月** 入学式・入寮式  
始業式・対面式・健康診断  
1年生合宿研修
- 5月** 後援会総会・保護者懇談会  
学生総会  
寮祭
- 6月** 前期中間試験  
平成23年度専攻科入学試験  
東京高専定期戦
- 7月** 東海地区高専体育大会  
1～4年生保護者懇談会  
近畿東海北陸信越弓道大会  
一日体験入学
- 8月** 平成23年度編入学試験  
全国高専体育大会  
全国高専将棋大会
- 9月** 防災訓練  
校内英語スピーチコンテスト  
前期期末試験

- 10月** 4年生工場見学旅行  
高専ロボコン東海北陸地区大会  
2年生特別研修  
体育祭・学生総会  
文化講演会
- 11月** 高専祭  
授業参観  
高専ロボコン全国大会  
1～4年生後期中間試験
- 12月** 4年生工学系数学統一試験  
3年生課外教育特別講演

### 平成23年

- 1月** 中部近畿地区高専将棋大会  
3年生合宿研修  
3年生学習到達度試験  
平成23年度推薦選抜入試
- 2月** 学年末試験  
平成23年度学力選抜入試
- 3月** 5年卒業研究発表  
卒業式・修了式

